

## 2. 「広報活動」について

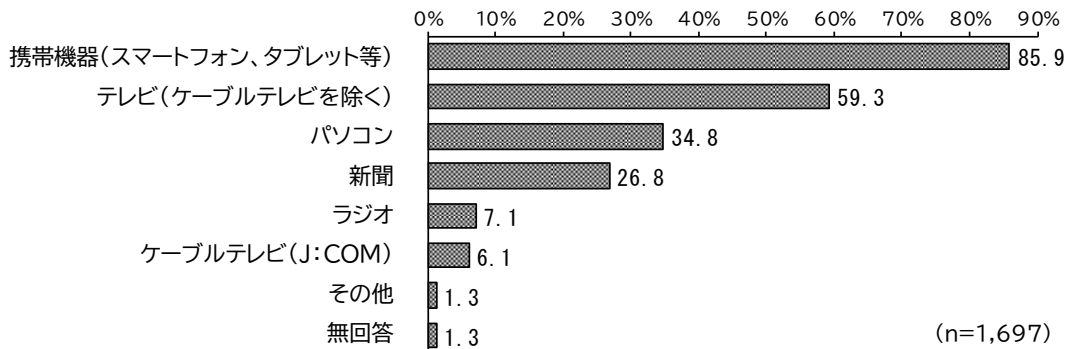
### (1) 情報を入力するためによく利用するもの

情報入手は、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」の利用が8割超

**【問4】 普段、情報を入力するためによく利用する情報媒体は何ですか。(〇はいくつでも)**

情報を入力するために使われているのは、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」(85.9%)で最も高く、次ぐ「テレビ（ケーブルテレビを除く）」(59.3%)までは5割を超え、以下、「パソコン」(34.8%)、「新聞」(26.8%)となっており、これらの情報媒体が広く利用されている。

「その他」としては、「広報紙」(9件)などが挙がっている。



図Ⅲ－23 情報を入力するためによく利用するもの

表Ⅲ－3 「その他」の内訳

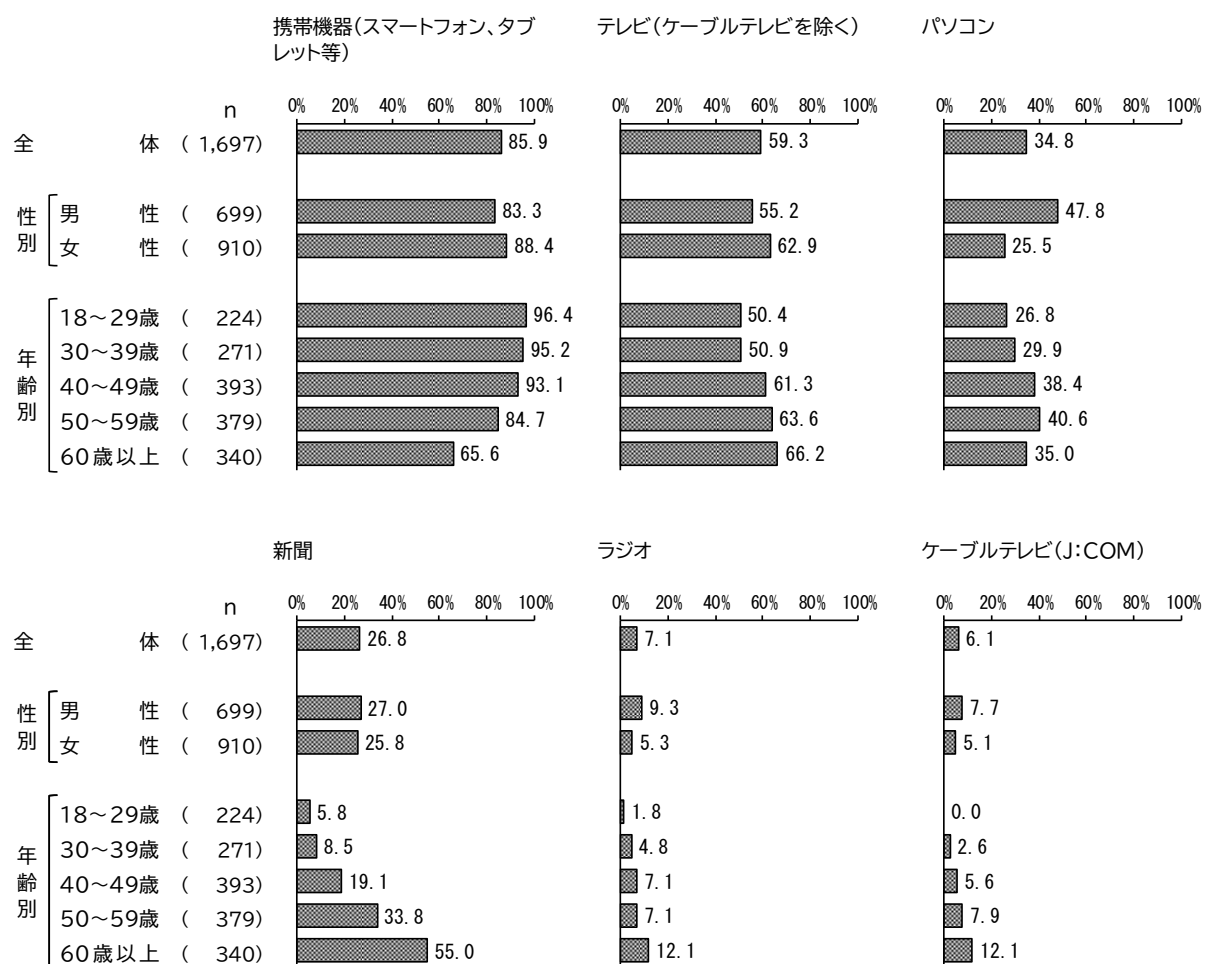
「その他」の内容	件数
広報紙	9
職場・近所・友人・知人からの口コミ	4
雑誌	4
情報誌・チラシ	3
地域新聞	2
市役所	1
公民館	1
(記載なし)	3
合計	27

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」、「テレビ（ケーブルテレビを除く）」では女性（88.4%、62.9%）が、「パソコン」では男性（47.8%）の割合が高くなっている。

年齢別にみると、「携帯機器（スマートフォン、タブレット等）」の割合は、年齢が下がるに従い高くなっており、最も高い18～29歳（96.4%）と最も低い60歳以上（65.6%）に30.8ポイントの差が見られるが、60歳以上でも6割を超える人が利用している。

一方、「テレビ（ケーブルテレビを除く）」、「新聞」の割合は、年齢が上がるに従い高くなっており、「新聞」においては、最も高い60歳以上（55.0%）と最も低い18～29歳（5.8%）に49.2ポイントの差がある。



図Ⅲ－２４ 情報を入力するためによく利用するもの（性別／年齢別）

(2) 市の事業やイベント情報などの入手方法

「広報ふなばし(紙)」から情報を得ている人は5割超

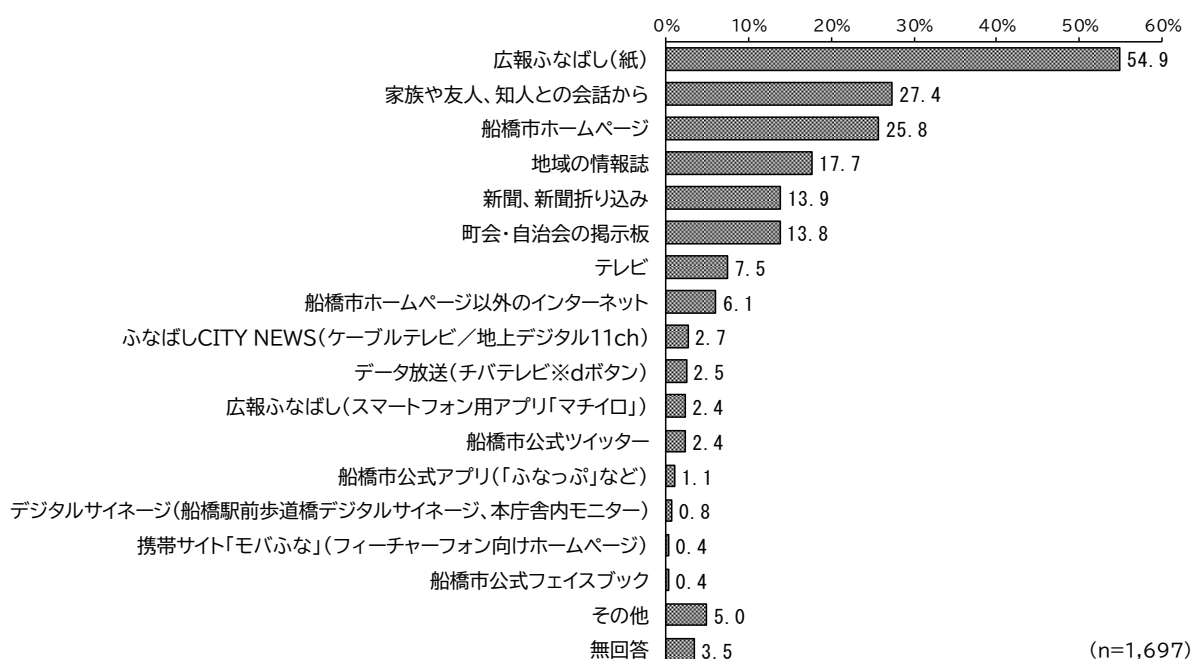
【問5】市の事業やイベント情報などをどこから入手していますか。

(〇はいくつでも)

市の事業やイベント情報などを得る手段として、「広報ふなばし(紙)」の割合は、54.9%と最も高く5割を超えている。

次いで、「家族や友人、知人との会話から」(27.4%)、「船橋市ホームページ」(25.8%)、「地域の情報誌」(17.7%)、「新聞、新聞折り込み」(13.9%)、「町会・自治会の掲示板」(13.8%)と続いている。

「その他」については、「SNSやアプリ、ホームページ検索」(17件)などが挙げられている。



図Ⅲ－25 市の事業やイベント情報などの入手方法

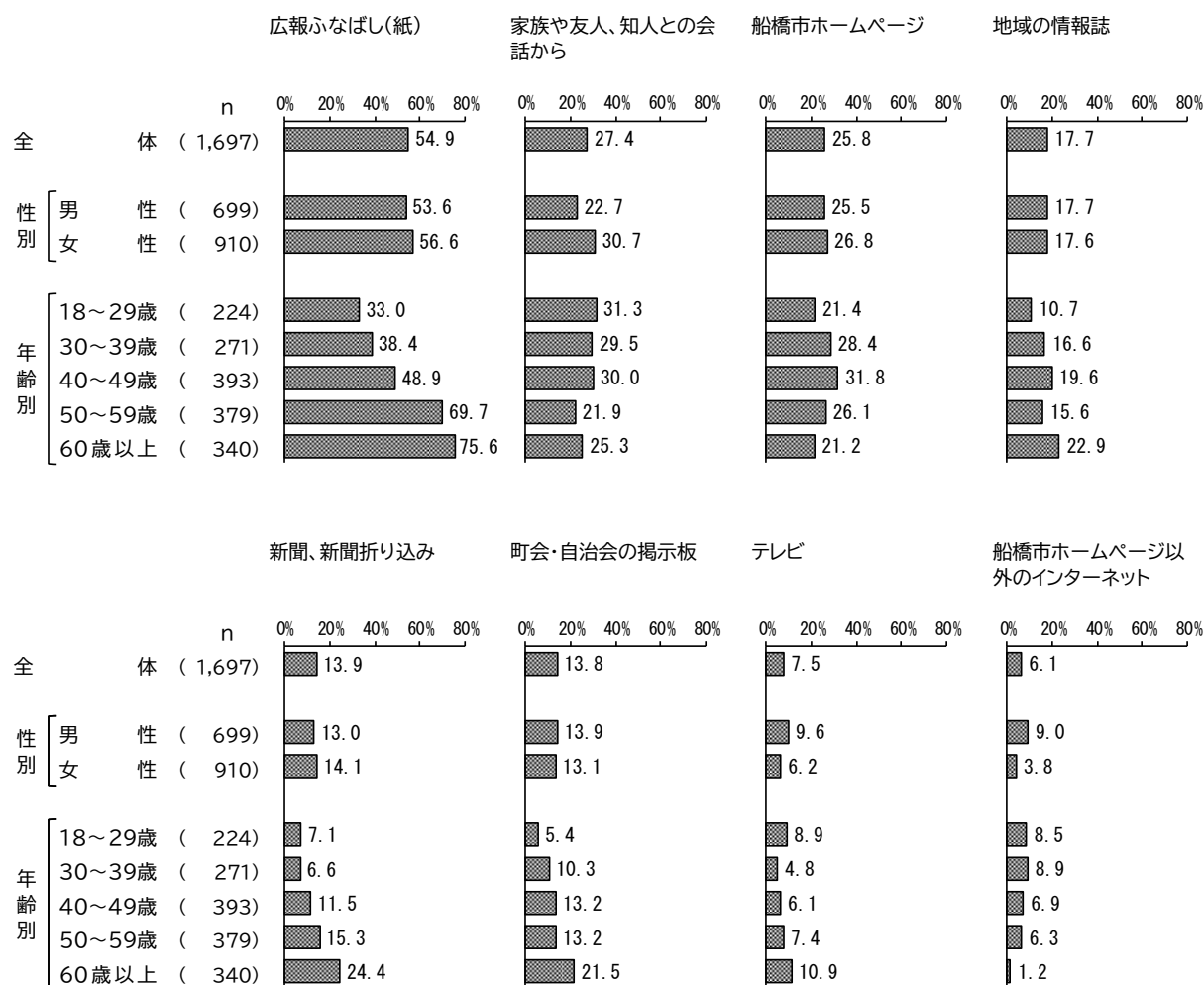
表Ⅲ－4 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
SNSやアプリ、ホームページ検索	17
学校等からの配布物	7
町会・自治会の回覧板、配布物	5
交通機関での掲示物、配布物	4
口コミ	4
公共施設での掲示物、配布物	3
ポストに投函されるチラシ	2
市議会議員の会報	1
入手しない・していない	39
(記載なし)	3
合計	85

【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「広報ふなばし(紙)」、「家族や友人、知人との会話から」では、女性(56.6%、30.7%)の割合が、男性(53.6%、22.7%)に比べ高くなっている。一方、「テレビ」、「船橋市ホームページ以外のインターネット」では、男性(9.6%、9.0%)の割合が、女性(6.2%、3.8%)に比べ高くなっている。

年齢別にみると、60歳以上が、「広報ふなばし(紙)」、「新聞、新聞折り込み」、「地域の情報誌」といった紙媒体の割合が高くなっている。



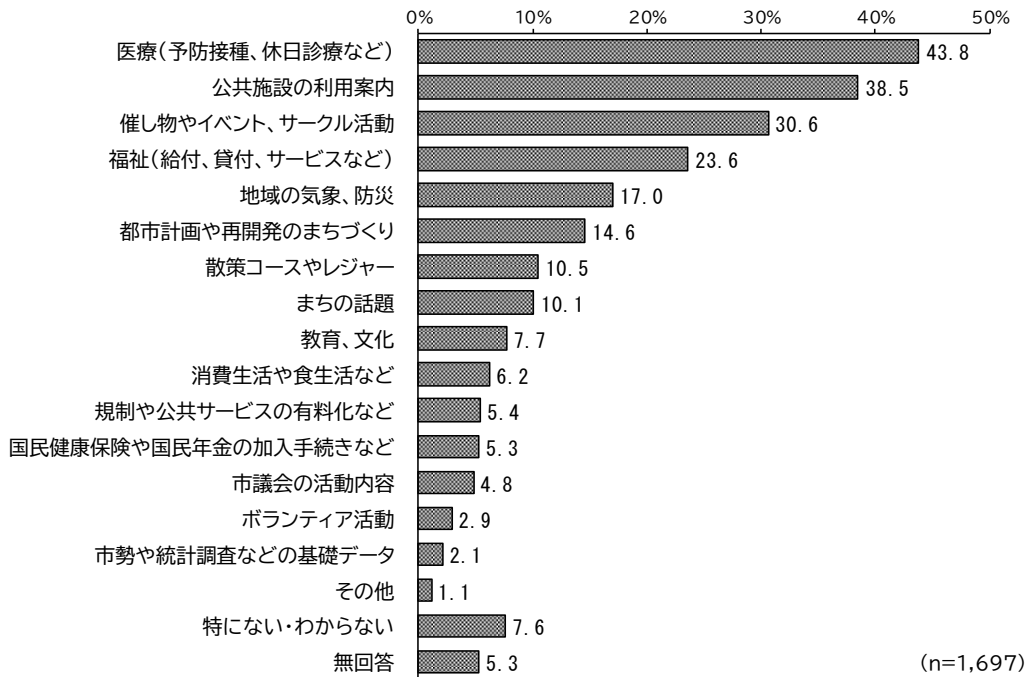
図Ⅲ-26 市の事業やイベント情報などの入手方法（性別／年齢別）（上位8項目）

(3) 広報紙やホームページで知りたい情報

知りたい情報は、「医療（予防接種、休日診療など）」、「公共施設の利用案内」、「催し物やイベント、サークル活動」などの日常生活に必要なこと

【問6】 広報紙やホームページで知りたい情報は何ですか。(〇は3つまで)

広報紙やホームページで知りたい情報として、「医療（予防接種、休日診療など）」(43.8%)で最も高く、次いで、「公共施設の利用案内」(38.5%)、「催し物やイベント、サークル活動」(30.6%)が続き、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」(23.6%)までは2割を超えている。「その他」については、「採用等の求人情報」(5件)などが挙げられている。



図Ⅲ－２７ 広報紙やホームページで知りたい情報

表Ⅲ－５ 「その他」の内訳

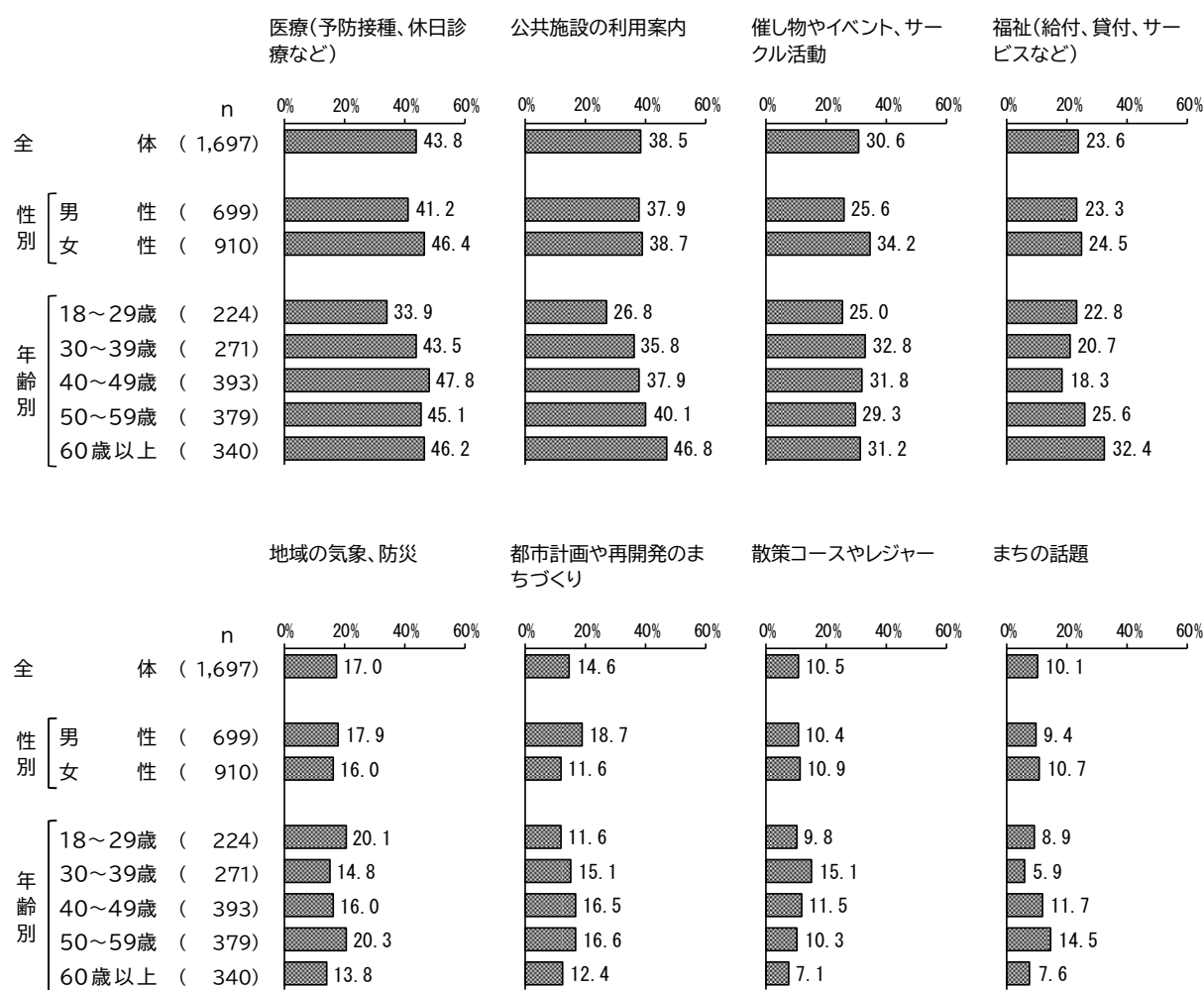
「その他」の内容	件数
採用等の求人情報	5
新型コロナの感染情報	2
花火の日程など	2
税金・予算の使われ方	2
保育園に関する情報	2
その他	4
(記載なし)	2
合計	19

【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「医療（予防接種、休日診療など）」、「催し物やイベント、サークル活動」は、女性（46.4%、34.2%）が男性（41.2%、25.6%）より、各々5.2、8.6ポイント高い。一方、「都市計画や再開発のまちづくり」は、男性（18.7%）が女性（11.6%）より7.1ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「医療（予防接種、休日診療など）」では、18～29歳を除く全ての年齢で4割を超えている。

「公共施設の利用案内」、「福祉（給付、貸付、サービスなど）」では、60歳以上（46.8%、32.4%）で高くなっている。



図Ⅲ－28 広報紙やホームページで知りたい情報（性別／年齢別）（上位8項目）

(4) 「広報活動」概観

広報紙やホームページで提供する情報は、必要としている人の属性に合ったものが必要

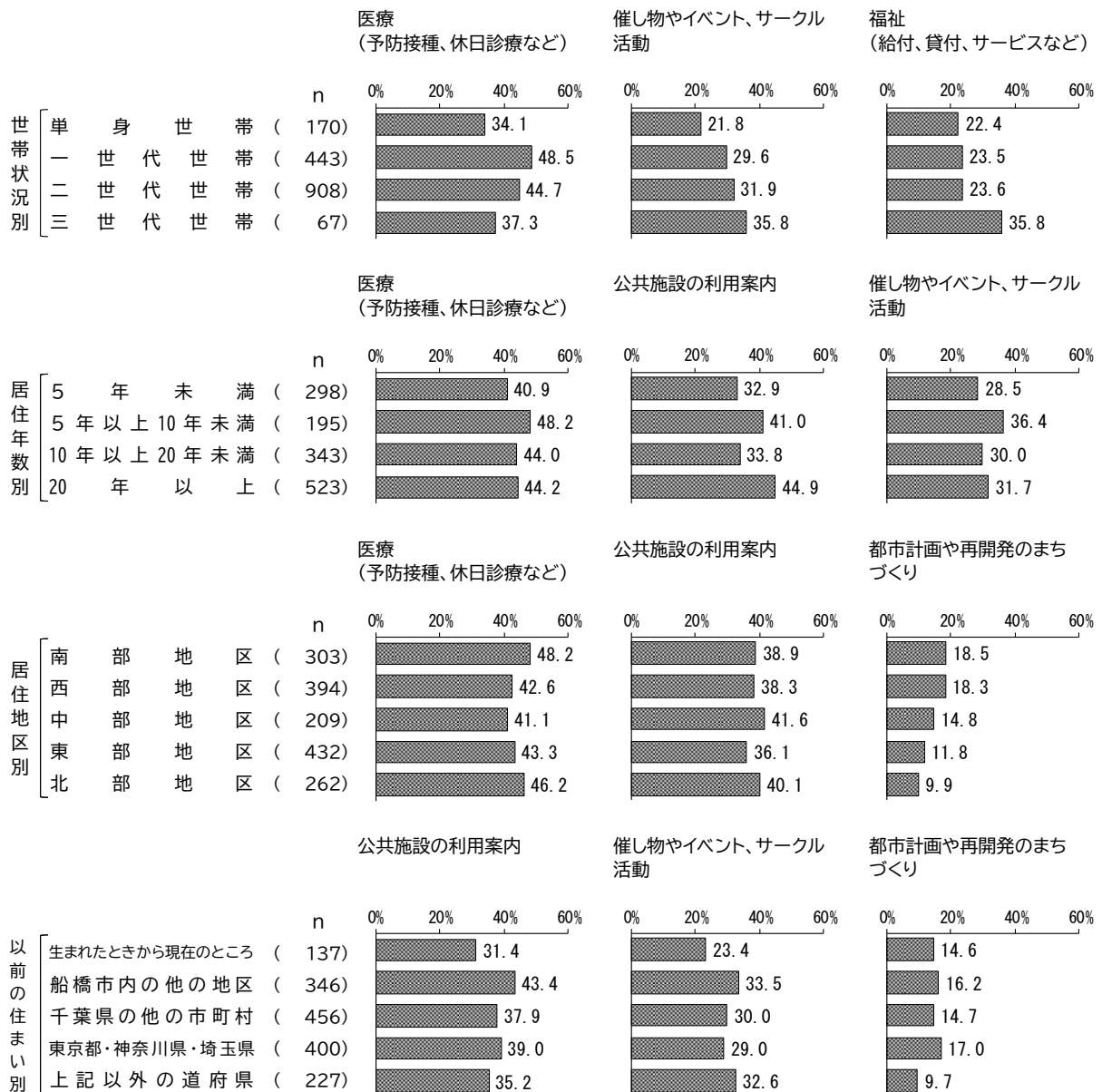
広報紙やホームページで知りたい情報については、全体、性別、年齢別に比較しているが、ここでは、他の属性情報の区分間で最も違いの大きい項目を挙げる。

世帯状況別にみると、「医療（予防接種、休日診療など）」で一世代世帯（48.5%）と単身世帯（34.1%）に14.4ポイントの差が見られる（「その他」を除く）。

居住年数別にみると、「公共施設の利用案内」で、20年以上（44.9%）と5年未満（32.9%）に12.0ポイントの差が見られる（「生まれたときから現在のところ」を除く）。

居住地区別にみると、「都市計画や再開発のまちづくり」で、南部地区（18.5%）と北部地区（9.9%）に8.6ポイントの差が見られる。

以前の住まい別にみると、「公共施設の利用案内」で、船橋市内の他の地区（43.4%）と生まれたときから現在のところ（31.4%）に12.0ポイントの差が見られる（「日本国外」を除く）。



図Ⅲ-29 広報紙やホームページで知りたい情報

### 3. 「新型コロナウイルス感染症の影響」について

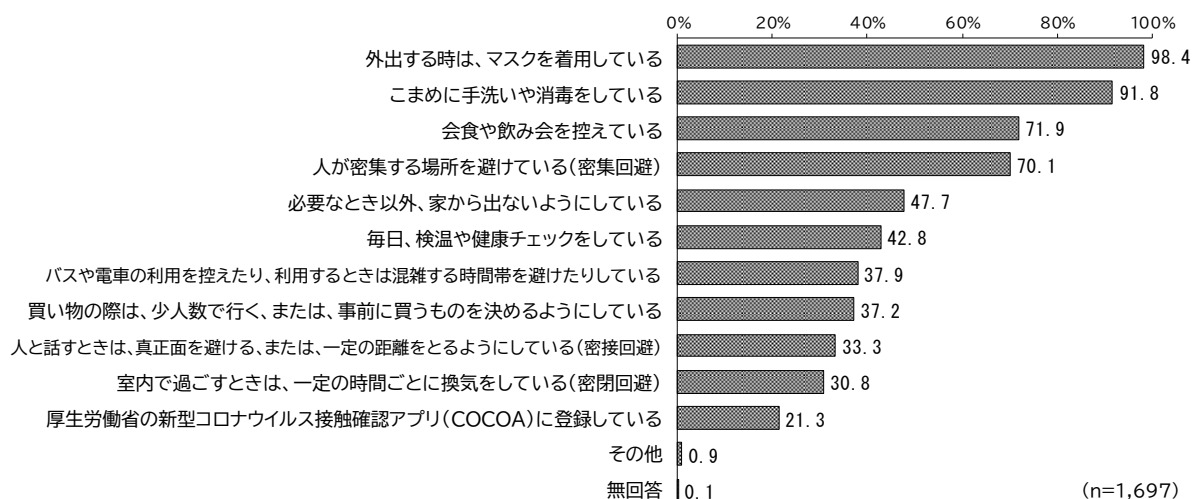
#### (1) 新型コロナウイルス感染防止対策

感染防止対策で「外出する時は、マスクを着用している」人が10割弱とほぼ全員

【問7】日常生活の中で、どのような感染防止対策をしていますか。(〇はいくつでも)

新型コロナウイルス感染防止対策を聞いたところ、「外出する時は、マスクを着用している」の割合が98.4%と最も高く、次いで、「こまめに手洗いや消毒をしている」(91.8%)、「会食や飲み会を控えている」(71.9%)、「人が密集する場所を避けている(密集回避)」(70.1%)までは7割を超えている。

「その他」については、「旅行や帰省を控えている」(3件)などが挙げられている。



図Ⅲ-30 新型コロナウイルス感染防止対策

表Ⅲ-6 「その他」の内訳

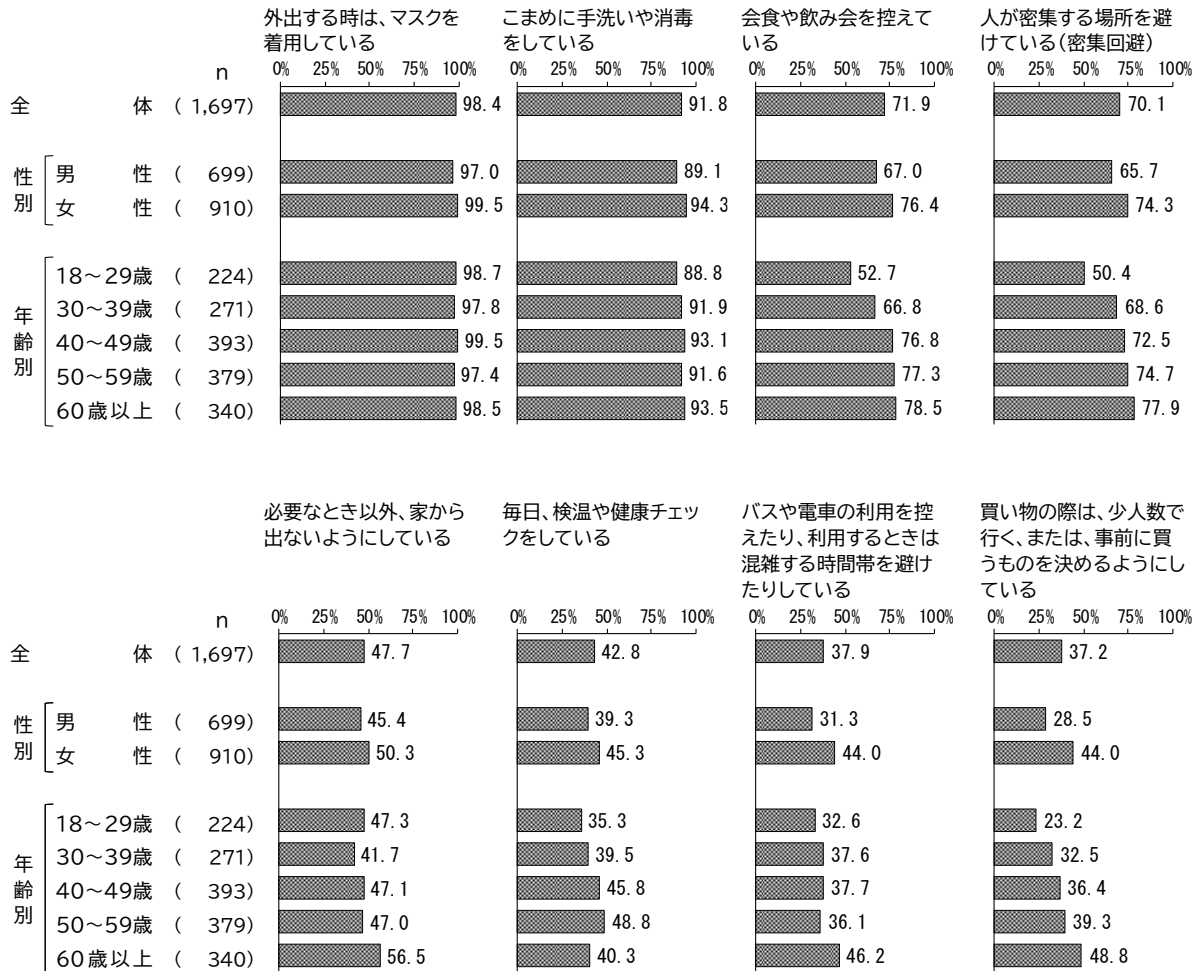
「その他」の内容	件数
旅行や帰省を控えている	3
オンライン受講、テレワークにしている	2
飲み会はオンラインにしている	2
家族でも食事場所、時間を変えている。テイクアウトにしている	2
消毒薬やフェイスシールドを持ち歩いている	2
その他	4
(記載なし)	2
合計	17



【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「バスや電車の利用を控えたり、利用するときは混雑する時間帯を避けたりしている」、「買い物の際は、少人数で行く、または、事前に買うものを決めるようにしている」は、女性（ともに44.0%）が男性（31.3%、28.5%）より、各々12.7、15.5ポイント高い。

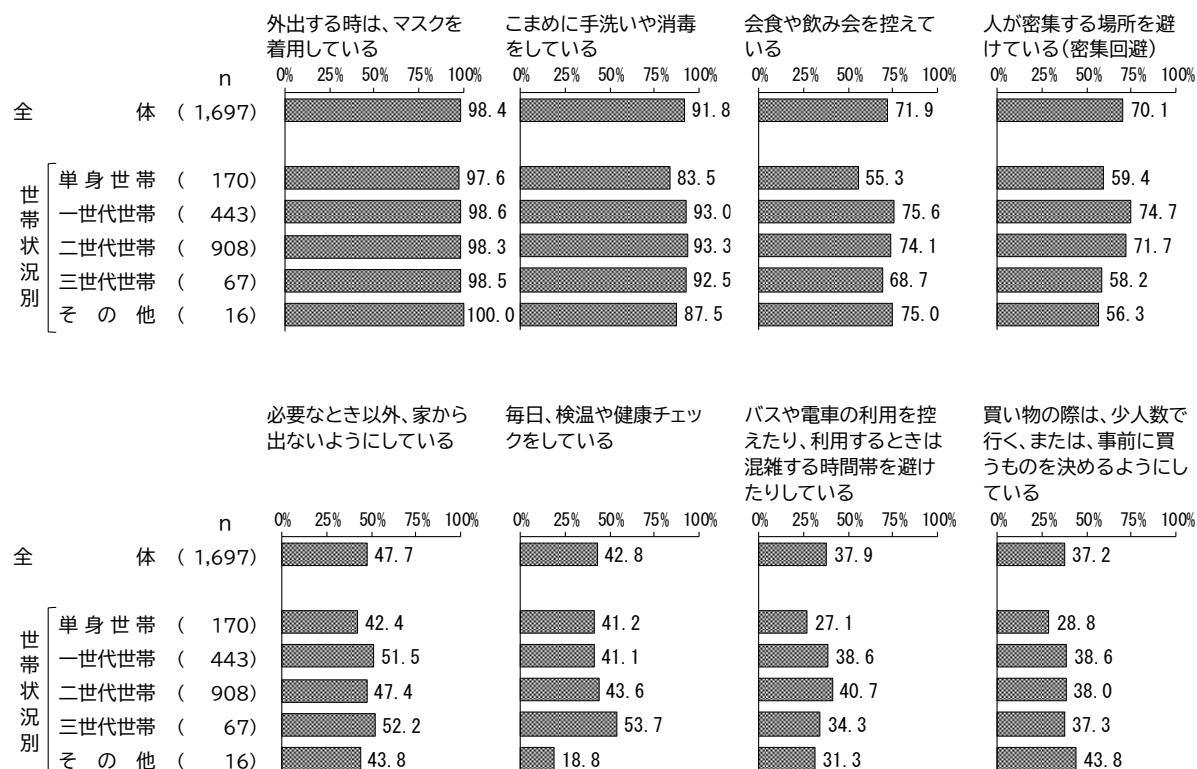
年齢別にみると、「外出する時は、マスクを着用している」では、全ての年齢で9割を超えている。また、「会食や飲み会を控えている」、「人が密集する場所を避けている（密集回避）」、「買い物の際は、少人数で行く、または、事前に買うものを決めるようにしている」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっている。



図Ⅲ－31 新型コロナウイルス感染防止対策（性別／年齢別）（上位8項目）

【世帯状況別】（上位8項目）

世帯状況別にみると、「外出する時は、マスクを着用している」は、全ての世帯で9割を超えている。また、「会食や飲み会を控えている」では、最も高い一世代世帯（75.6%）と最も低い単身世帯（55.3%）で20.3ポイントの差があり、「人が密集する場所を避けている（密集回避）」では、最も高い一世代世帯（74.7%）と最も低い三世代世帯（58.2%）で16.5ポイントの差がある。「毎日、検温や健康チェックをしている」は、三世代世帯で53.7%と高く、5割を超えている。



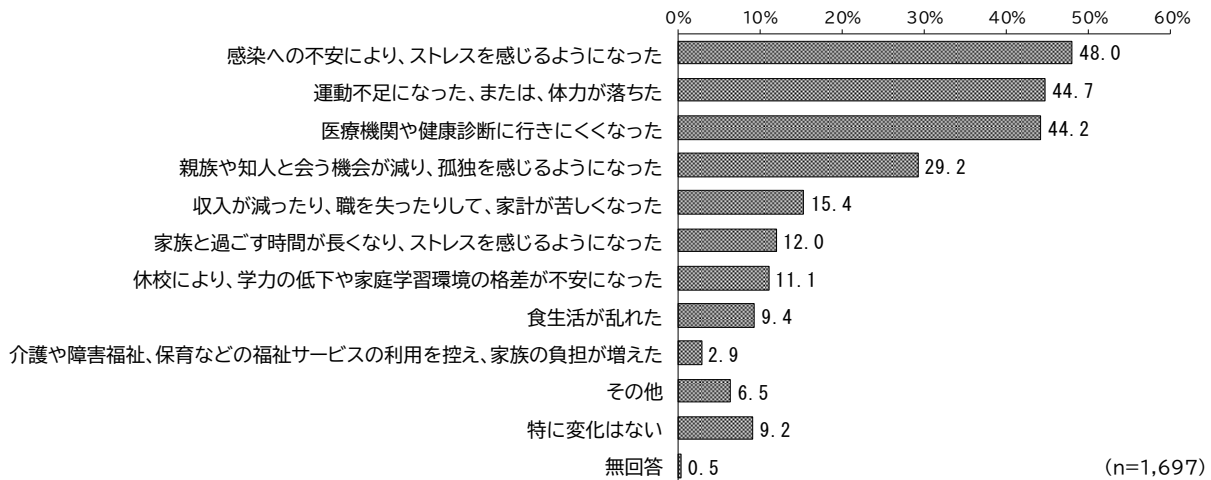
図Ⅲ－3 2 新型コロナウイルス感染防止対策（世帯状況別）（上位8項目）

(2) 生活や心身の変化

コロナ禍で「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」が5割弱

【問8】コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化がありましたか。(〇はいくつでも)

コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化があったかについて聞いたところ、「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」の割合が48.0%と最も高く、次いで「運動不足になった、または、体力が落ちた」(44.7%)、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」(44.2%)が4割を超え、「親族や知人と会う機会が減り、孤独を感じるようになった」(29.2%)が3割弱となっている。



図Ⅲ－33 生活や心身の変化

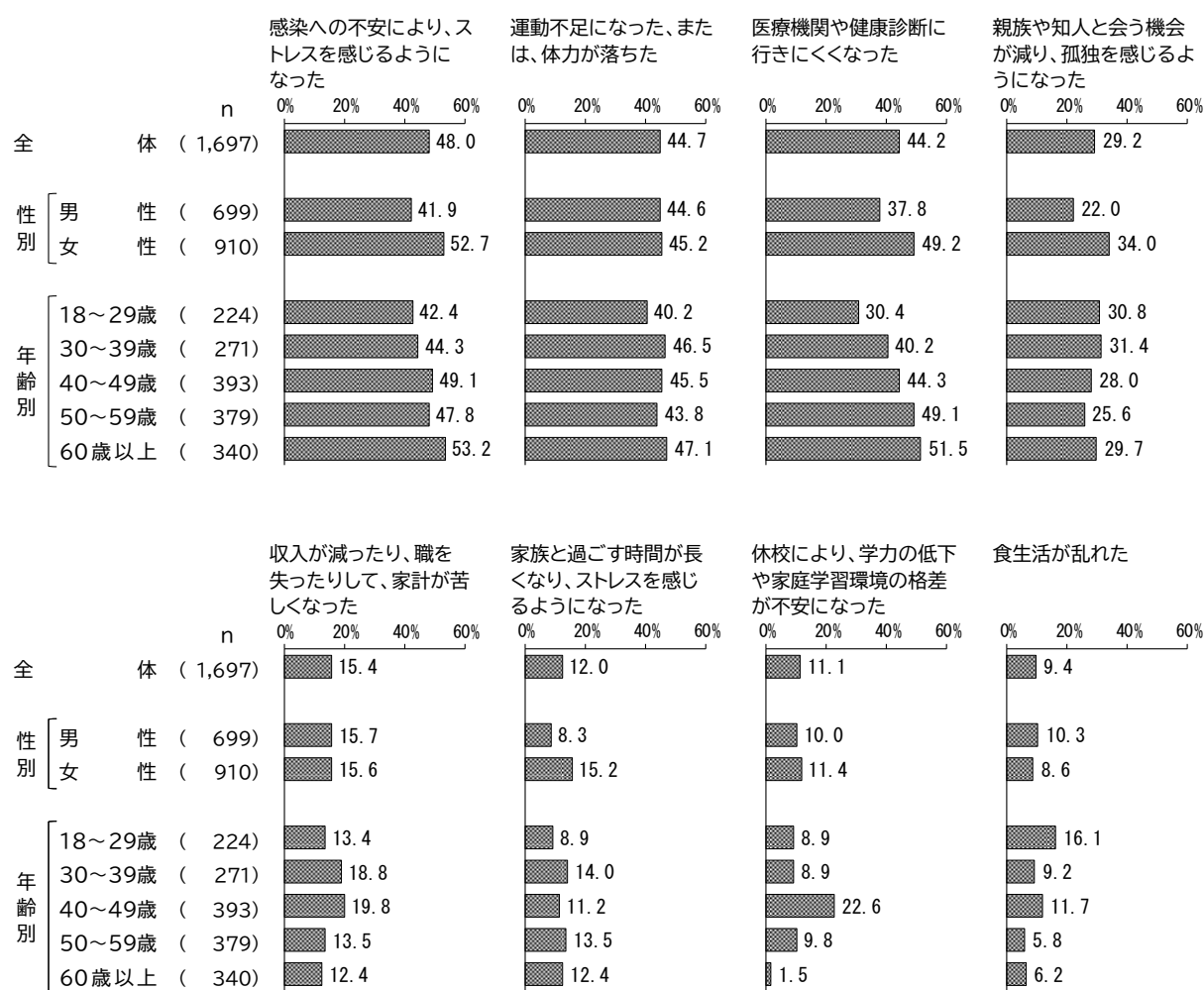
表Ⅲ－7 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
イベント、旅行、外食、買い物、運動などでできずストレスを感じるようになった	27
家族や親族、友人、知人など人に会えずストレスを感じるようになった	15
家族との時間が増え、幸せを感じるようになった	8
就職活動や仕事に支障が出たり、ストレスを感じるようになった	7
仕事が増えたり、忙しくなった	6
太ったり、肌荒れしたり、ストレス性の不調があった	6
物価が上がったり支出が増えたりして、家計が苦しくなった	6
生活や行動様式を見直すことができ、健康的になった	6
メディアや世の中の過剰な反応にストレスを感じるようになった	5
マスク着用など感染予防にストレスを感じるようになった	4
自炊や家事などやることが増えた	4
自粛や制限で自由に行動できなくなった	4
テレワークになったことで、通勤や対人関係などストレスが減った	3
その他	25
(記載なし)	2
合計	128

【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」、「親族や知人と会う機会が減り、孤独を感じるようになった」は、女性（52.7%、49.2%、34.0%）が男性（41.9%、37.8%、22.0%）より、各々10.8、11.4、12.0ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「感染への不安により、ストレスを感じるようになった」、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」では、年齢が上がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、60歳以上ではどちらも5割を超えている。また、「休校により、学力の低下や家庭学習環境の格差が不安になった」は、40～49歳で22.6%と最も高くなっている。



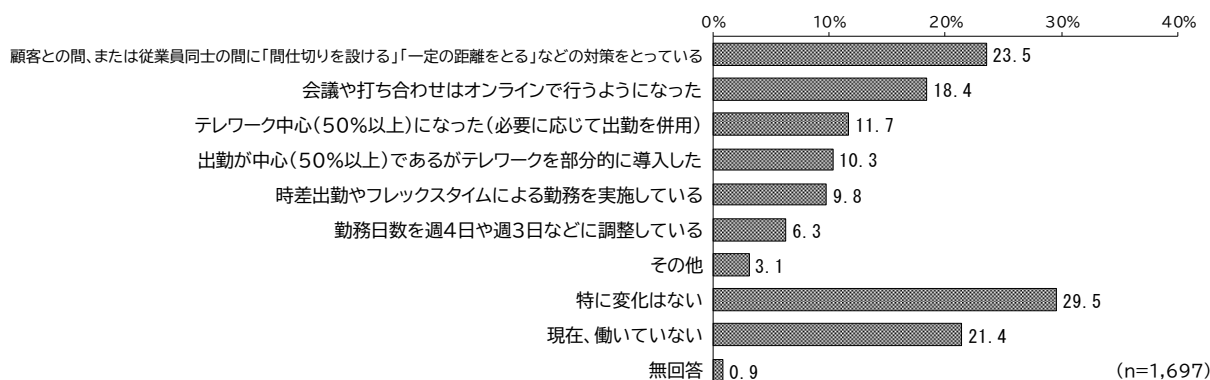
図Ⅲ－34 生活や心身の変化（性別／年齢別）（上位8項目）

### (3) 実践している働き方

「顧客との間、または従業員同士の間に『間仕切りを設ける』『一定の距離をとる』などの対策をとっている」、「会議や打ち合わせはオンラインで行うようになった」がおおむね2割

**【問9】 コロナ禍以前から変化し、現在も実践している働き方は何ですか。(〇はいくつでも)**

コロナ禍以前から変化し、現在も実践している働き方について聞いたところ、「顧客との間、または従業員同士の間に『間仕切りを設ける』『一定の距離をとる』などの対策をとっている」の割合が 23.5%と最も高く、次いで「会議や打ち合わせはオンラインで行うようになった」(18.4%)、「テレワーク中心(50%以上)になった(必要に応じて出勤を併用)」(11.7%)、「出勤が中心(50%以上)であるがテレワークを部分的に導入した」(10.3%)までが1割を超えている。なお、「特に変化はない」は3割となっている。



図Ⅲ－35 実践している働き方

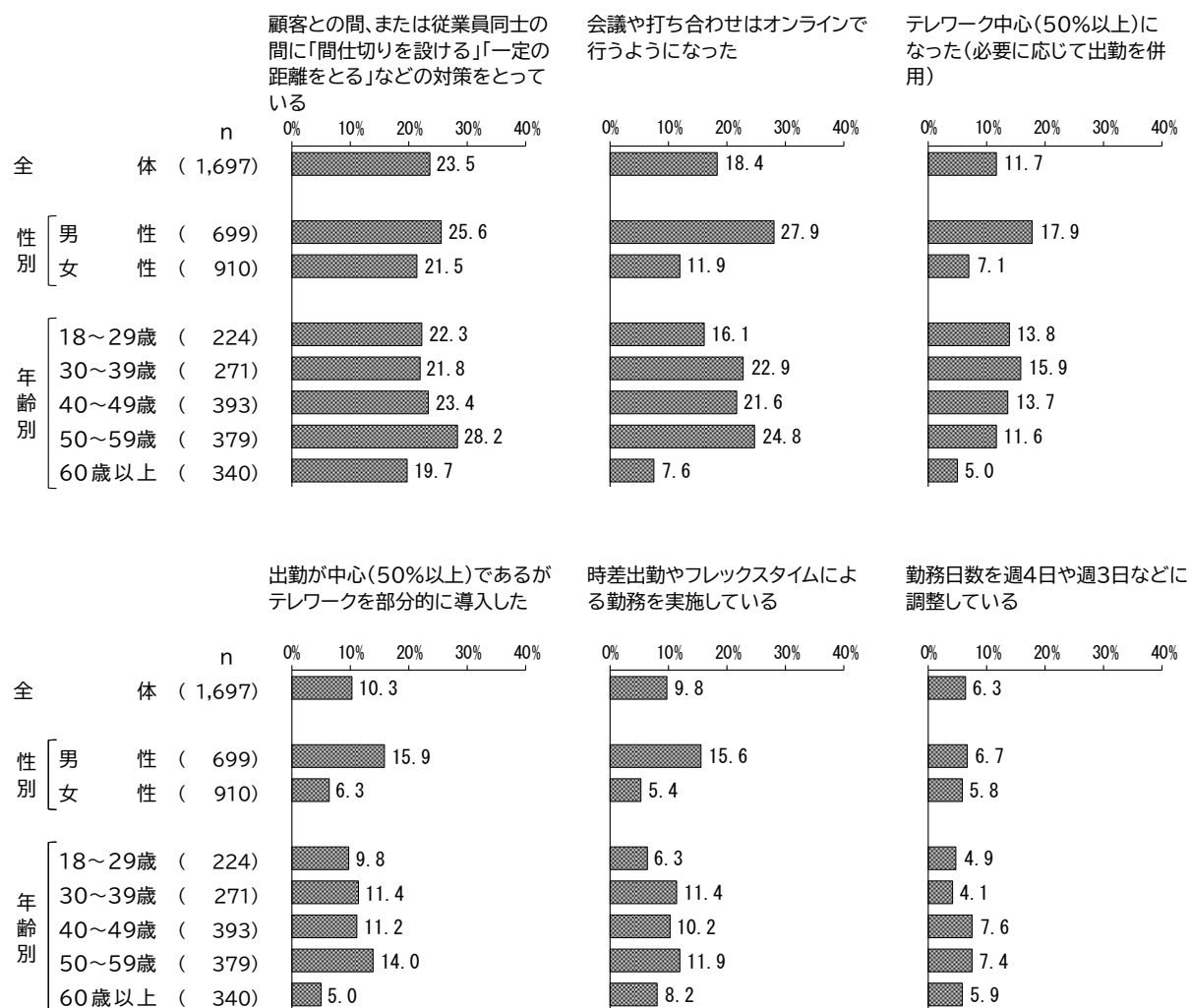
表Ⅲ－8 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
マスクやフェイスシールド、検温や手洗い、消毒などをするようになった	14
勤務日、勤務時間、残業が減ったりなくなった	9
会議や打ち合わせ、出張が減ったりなくなった	4
体温が高めのときは出勤や外出を控えるようになった	2
自宅待機になった	2
その他	21
(記載なし)	1
合計	53

【性別／年齢別】

性別で比較すると、全ての項目で男性の方が女性よりも高くなっている。なかでも「会議や打ち合わせはオンラインで行うようになった」は、男性の27.9%に対し、女性は11.9%と16.0ポイントの差が見られる。

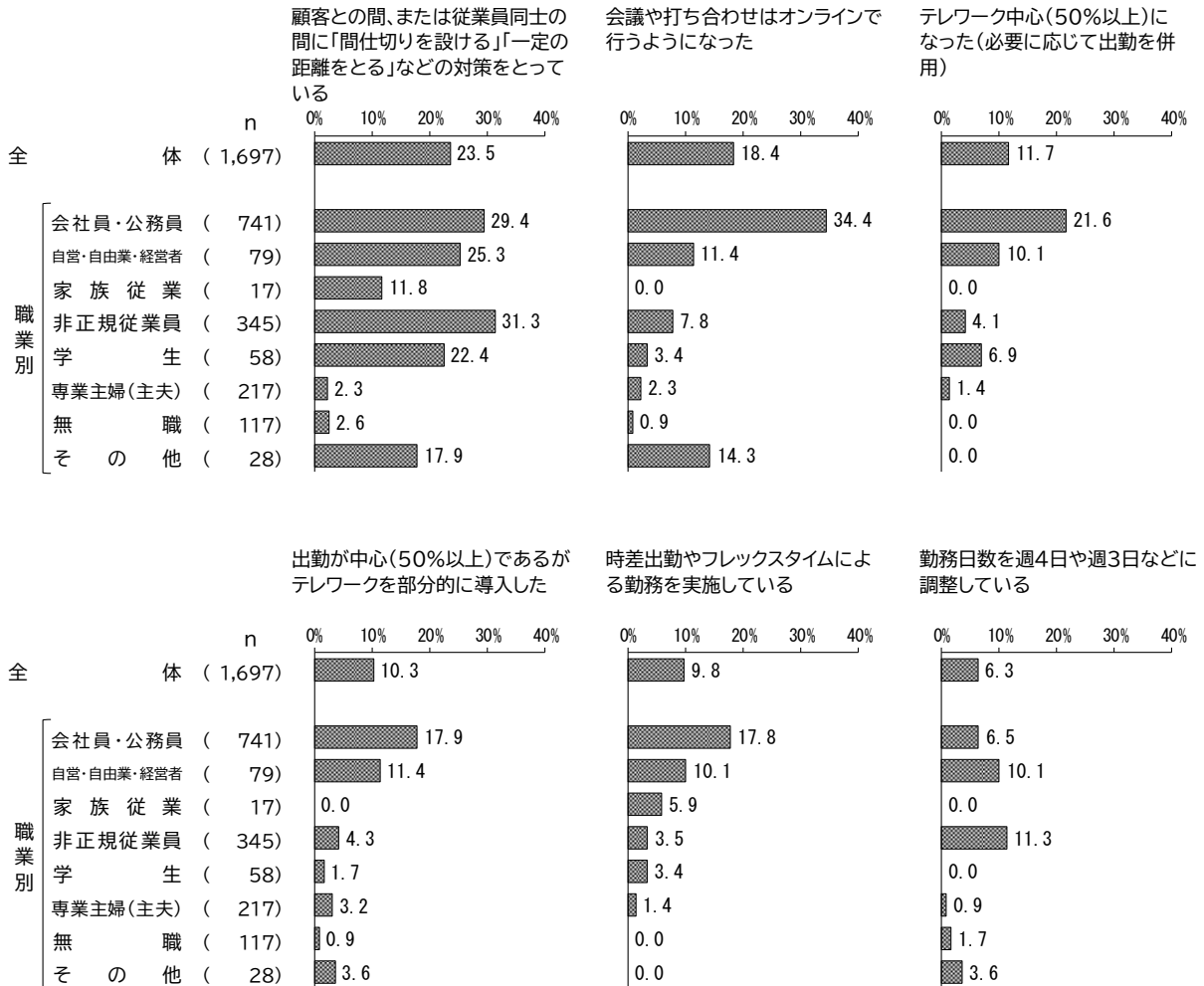
年齢別にみると、「顧客との間、または従業員同士の間に『間仕切りを設ける』『一定の距離をとる』などの対策をとっている」、「会議や打ち合わせはオンラインで行うようになった」、「出勤が中心（50%以上）であるがテレワークを部分的に導入した」、「時差出勤やフレックスタイムによる勤務を実施している」では、50～59歳で各々28.2%、24.8%、14.0%、11.9%と最も高くなっている。



図Ⅲ－36 実践している働き方（性別／年齢別）

【職業別】

職業別で比較すると、「顧客との間、または従業員同士の間に『間仕切りを設ける』『一定の距離をとる』などの対策をとっている」と「勤務日数を週4日や週3日などに調整している」を除く全ての項目で、会社員・公務員が最も高い。一方、「勤務日数を週4日や週3日などに調整している」は、非正規従業員 {アルバイト・パート・契約(派遣)社員} が11.3%、自営・自由業・経営者が10.1%と、他の職業と比べて高くなっている。



図Ⅲ-37 実践している働き方(職業別)

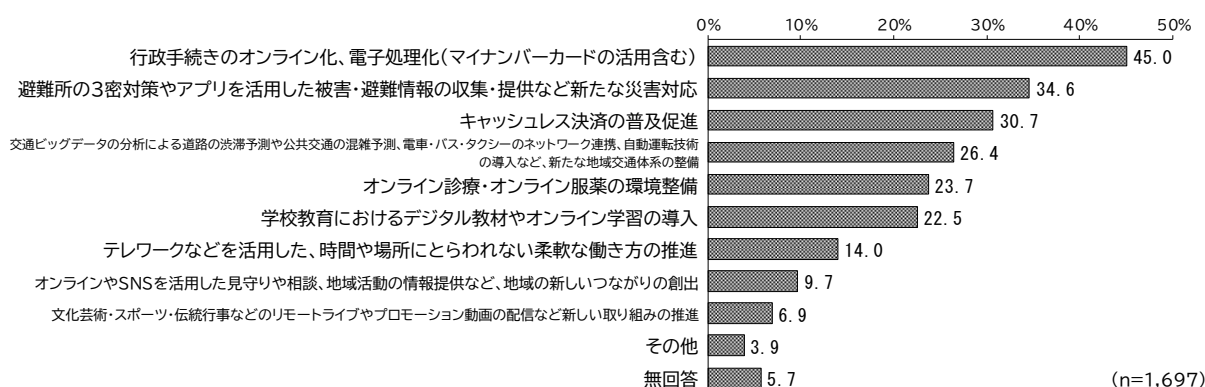
#### (4) 市が進めていくべき取り組み

「行政手続きのオンライン化、電子処理化（マイナンバーカードの活用含む）」が4割超

【問10】新しい生活様式に対応するために、今後市が特に進めていくべき取り組みは何であると考えますか。(〇は3つまで)

新しい生活様式に対応するために、今後市が特に進めていくべき取り組みは何であるかについて聞いたところ、「行政手続きのオンライン化、電子処理化（マイナンバーカードの活用含む）」の割合が45.0%と最も高く、次いで「避難所の3密対策やアプリを活用した被害・避難情報の収集・提供など新たな災害対応」（34.6%）、「キャッシュレス決済の普及促進」（30.7%）までが3割を超えている。

「その他」としては「オンラインを利用できない人への対応、支援、補助」（10件）などが挙げられている。



図Ⅲ－38 市が進めていくべき取り組み

表Ⅲ－9 「その他」の内訳

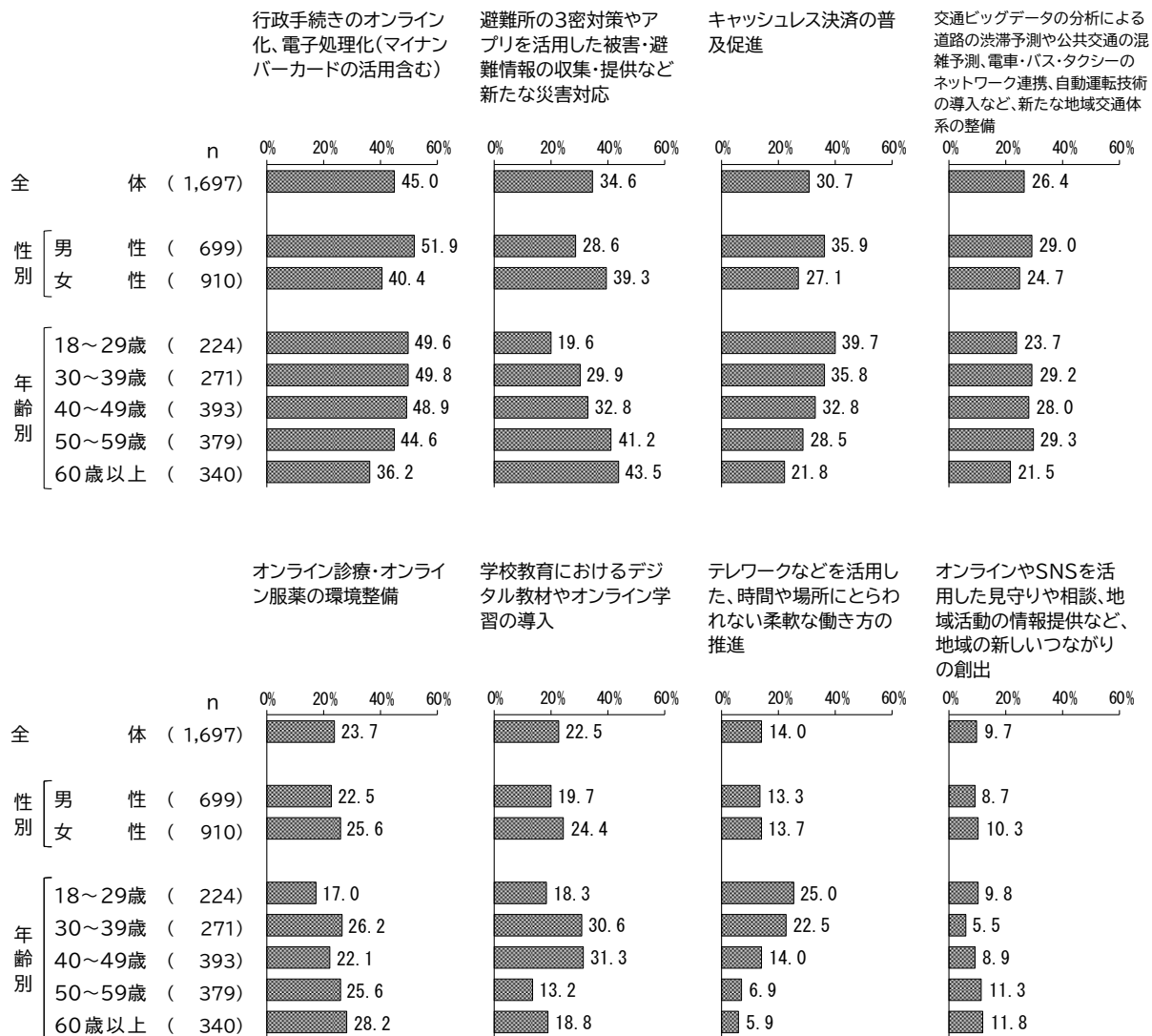
「その他」の内容	件数
オンラインを利用できない人への対応、支援、補助	10
医療体制、検査体制の構築や福祉行政の充実	5
子育て支援の充実	4
オンラインに頼らない方法の確立	3
感染防止対策を行わない個人・店舗・企業・組織への啓発	3
マイカー利用増による渋滞解消対策	3
個人情報を含む情報セキュリティの強化	3
低所得者への援助、給付金の支給	3
町内会が担っていることの電子化、オンライン化	2
市が進めるべき取り組みではない	2
その他	10
わからない	7
(記載なし)	11
合計	66



【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「行政手続きのオンライン化、電子処理化（マイナンバーカードの活用含む）」、「キャッシュレス決済の普及促進」は、男性（51.9%、35.9%）が女性（40.4%、27.1%）より、各々11.5、8.8ポイント高い。一方、「避難所の3密対策やアプリを活用した被害・避難情報の収集・提供など新たな災害対応」は、女性（39.3%）が男性（28.6%）より10.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「キャッシュレス決済の普及促進」、「テレワークなどを活用した、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の推進」では、年齢が下がるに従い割合が高くなっており、他方、「避難所の3密対策やアプリを活用した被害・避難情報の収集・提供など新たな災害対応」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっている。



図Ⅲ-39 市が進めていくべき取り組み（性別／年齢別）（上位8項目）

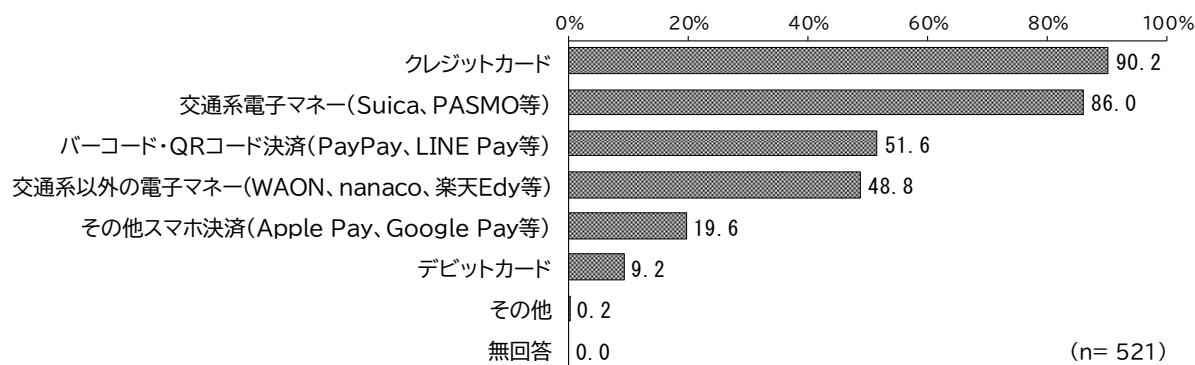
(4-1) 使用しているキャッシュレス決済

「交通系電子マネー」を使用している人が多く、「クレジットカード」は9割超

(問10)で「1. キャッシュレス決済の普及促進」を選んだ方

【問10-1】現在、使用している(使用を検討しているものも含む)キャッシュレス決済はありますか。(〇はいくつでも)

新しい生活様式に対応するために、今後市が特に進めていくべき取り組みで、「キャッシュレス決済の普及促進」と答えた人(521人)が、使用しているキャッシュレス決済は「クレジットカード」が90.2%と最も高く、次いで「交通系電子マネー(Suica、PASMO等)」(86.0%)までが8割を超え、続いて「バーコード・QRコード決済(PayPay、LINE Pay等)」(51.6%)、「交通系以外の電子マネー(WAON、nanaco、楽天Edy等)」(48.8%)までがおおむね5割となっている。



図Ⅲ-40 使用しているキャッシュレス決済

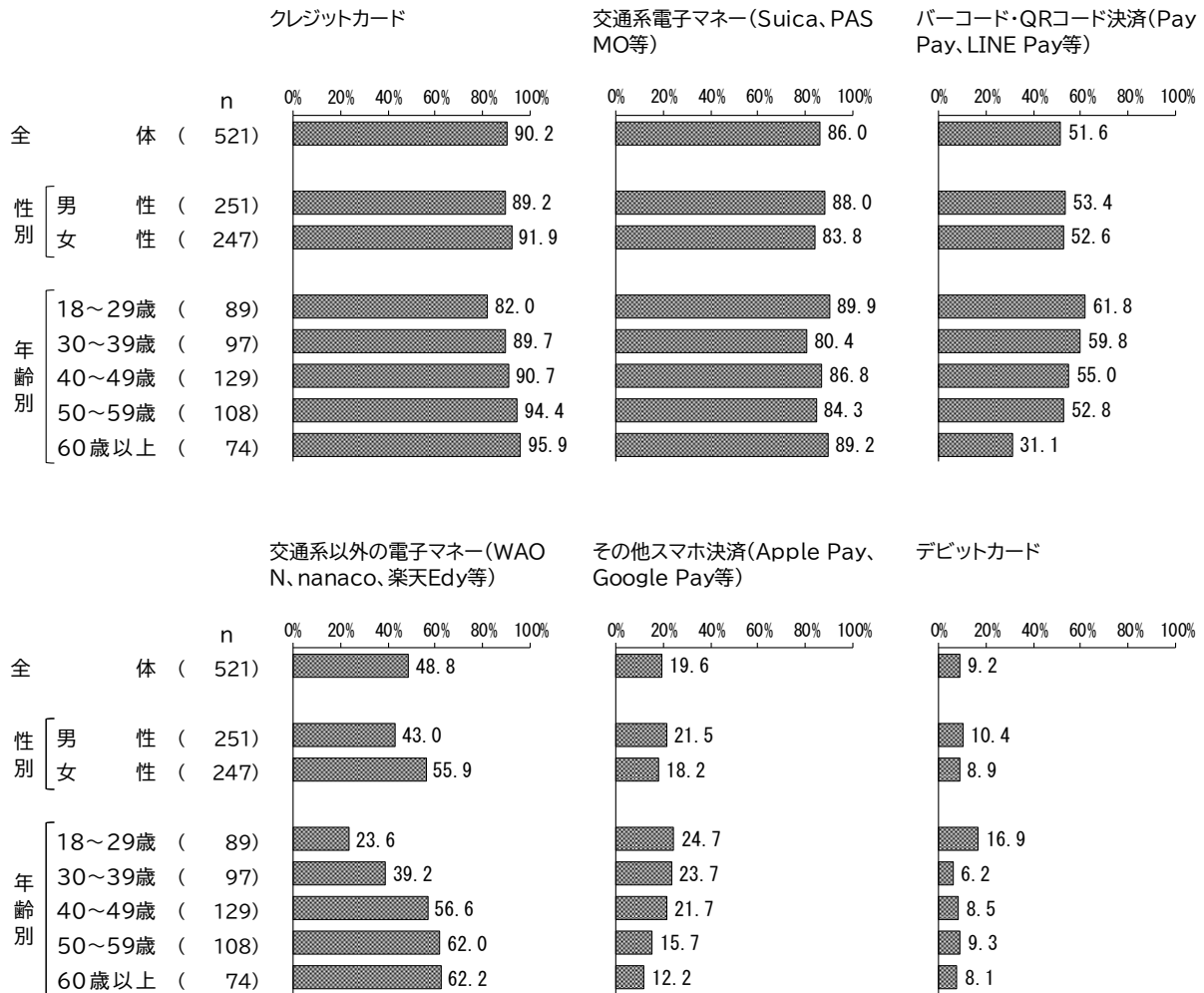
表Ⅲ-10 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
中国のスマホ決済	1
合計	1

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「交通系以外の電子マネー(WAON、nanaco、楽天Edy等)」で差が見られ、女性(55.9%)が男性(43.0%)より12.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「クレジットカード」は、年齢が上がるに従い割合が高くなっている。一方、「バーコード・QRコード決済(PayPay、LINE Pay等)」、「その他スマホ決済(Apple Pay、Google Pay等)」では年齢が下がるに従い割合が高くなっている。



図Ⅲ-4 1 使用しているキャッシュレス決済(性別／年齢別)

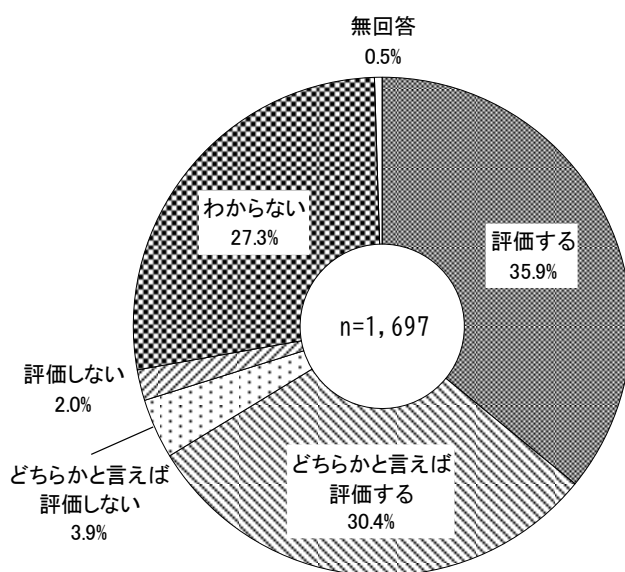
(5) 感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実に対する評価

『評価する』は6割超

【問11】市の対策①「感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。(〇は1つ)

市の「感染症拡大防止のための医療提供体制の整備・充実」に対する評価について聞いたところ、「評価する」が35.9%で最も高く、次いで「どちらかと言えば評価する」(30.4%)、「わからない」(27.3%)、「どちらかと言えば評価しない」(3.9%)、「評価しない」(2.0%)の順となっている。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、66.3%と6割を超えている。



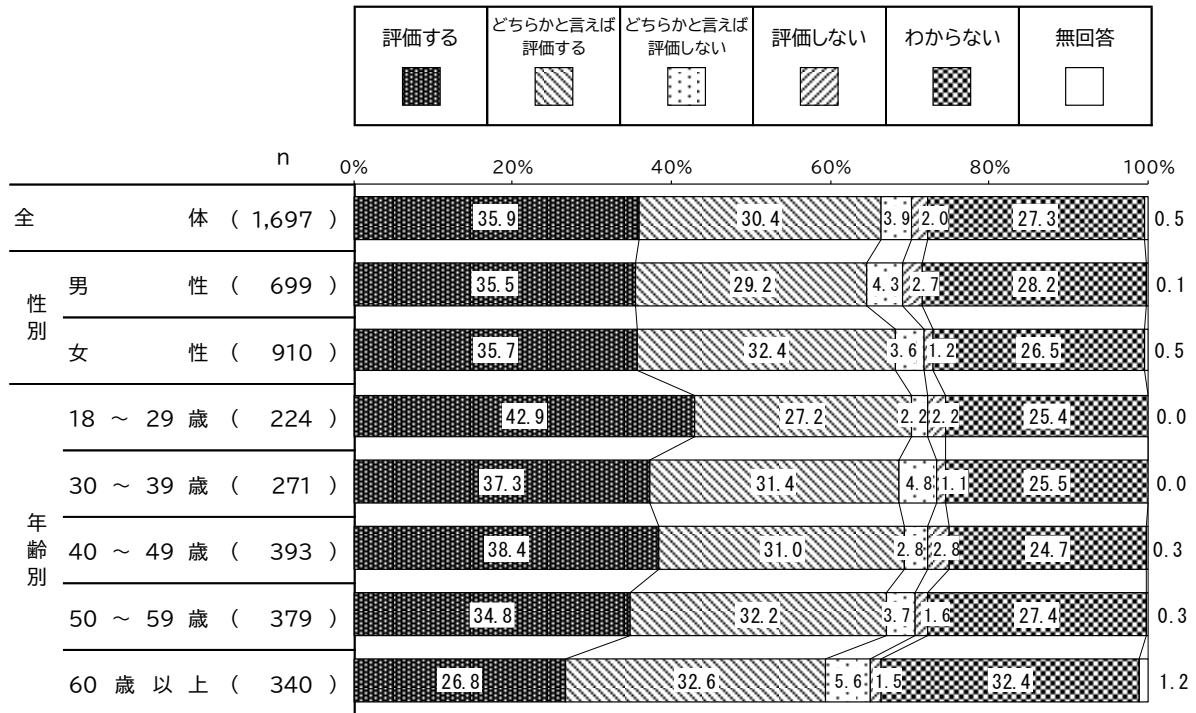
図Ⅲ-42 医療提供体制の整備・充実に対する評価

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「どちらかと言えば評価する」の割合は、女性（32.4%）が男性（29.2%）より 3.2 ポイント高くなっているが、その他の項目では大きな差は見られない。

年齢別にみると、「評価する」の割合は、18～29 歳（42.9%）が最も高く、最も低い 60 歳以上（26.8%）と 16.1 ポイントの差がある。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、年齢が下がるに従い高くなる傾向が見られ、最も高い 18～29 歳（70.1%）と最も低い 60 歳以上（59.4%）の差は 10.7 ポイントになる。



図Ⅲ－４３ 医療提供体制の整備・充実に対する評価（性別／年齢別）

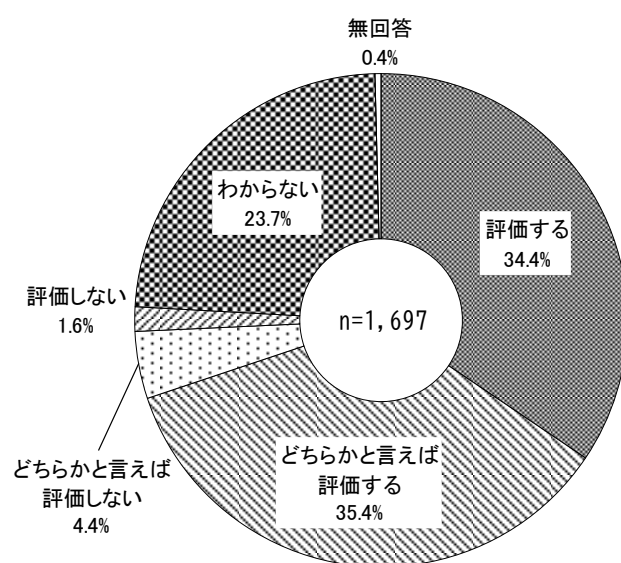
(6) 安全・安心な生活を守るための支援に対する評価

『評価する』は7割

【問12】市の対策②「安全・安心な生活を守るための支援」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。(〇は1つ)

市の「安全・安心な生活を守るための支援」に対する評価について聞いたところ、「どちらかと言えば評価する」が35.4%で最も高く、次いで「評価する」(34.4%)、「わからない」(23.7%)、「どちらかと言えば評価しない」(4.4%)、「評価しない」(1.6%)の順となっている。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、69.8%と7割になっている。



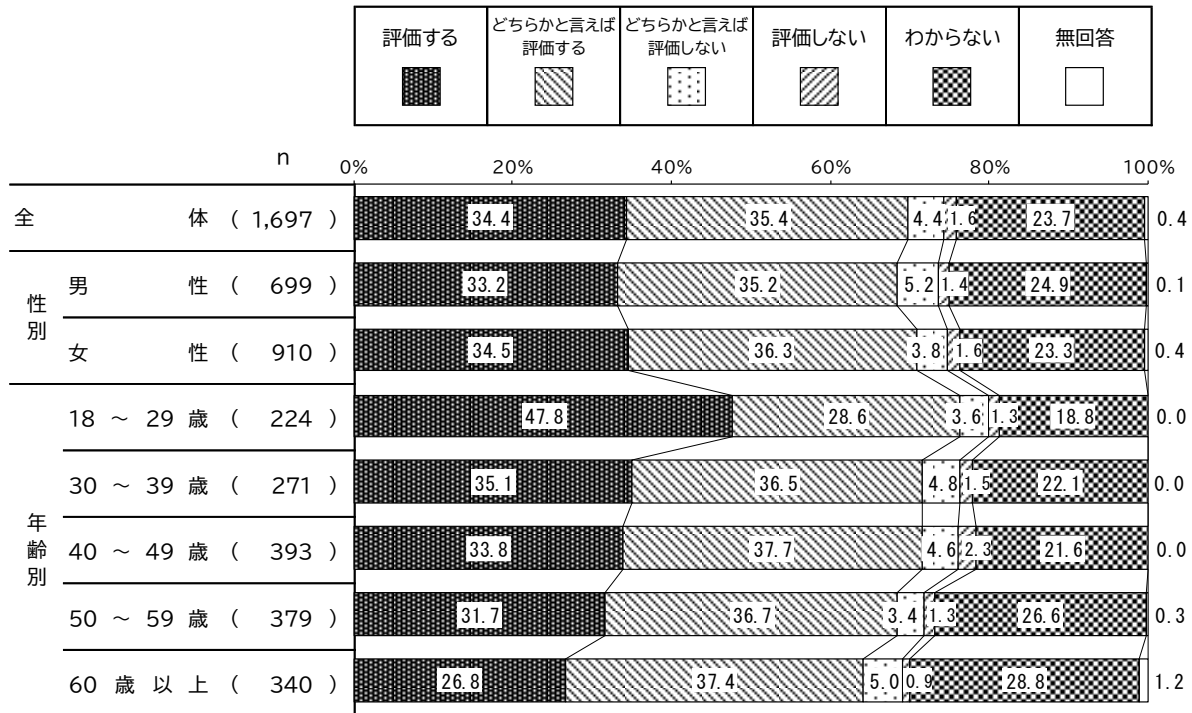
図Ⅲ-44 安全・安心な生活を守るための支援に対する評価

【性別／年齢別】

性別で比較すると、全ての項目の割合で、女性と男性の割合の差が 1.6 ポイント以下になっており、大きな差は見られない。

年齢別にみると、「評価する」の割合は、18～29 歳（47.8%）が最も高く、最も低い 60 歳以上（26.8%）と 21.0 ポイントの差がある。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、年齢が下がるに従い高くなり、最も高い 18～29 歳（76.4%）と最も低い 60 歳以上（64.2%）の差は 12.2 ポイントとなっている。



図Ⅲ－４５ 安全・安心な生活を守るための支援に対する評価（性別／年齢別）

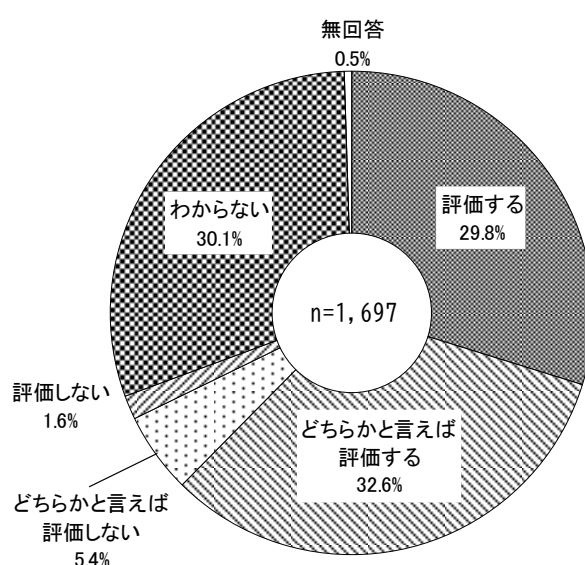
(7) 市内経済維持のための事業者支援に対する評価

『評価する』は6割超

【問13】市の対策③「市内経済維持のための事業者支援」に対するあなたの評価について、最もあてはまるものはどれですか。(〇は1つ)

市の「市内経済維持のための事業者支援」に対する評価について聞いたところ、「どちらかと言えば評価する」が32.6%で最も高く、次いで「わからない」(30.1%)、「評価する」(29.8%)、「どちらかと言えば評価しない」(5.4%)、「評価しない」(1.6%)の順となっている。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、62.4%と6割を超えている。



図Ⅲ－46 市内経済維持のための事業者支援に対する評価

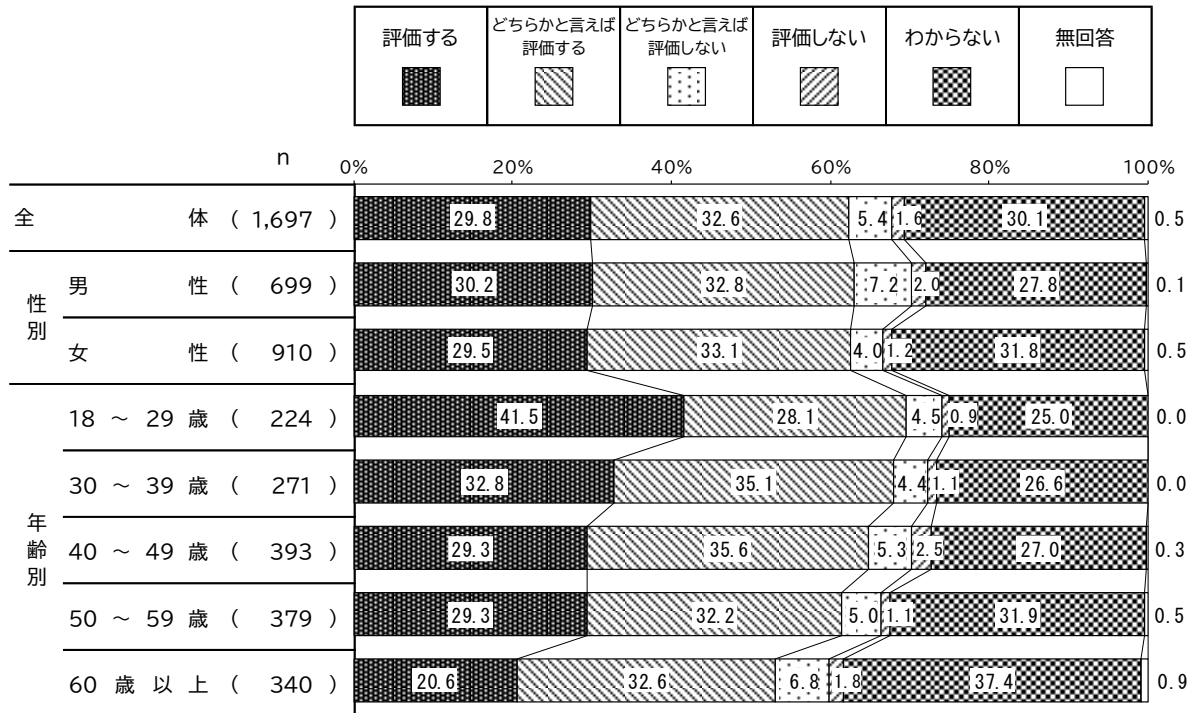


【性別／年齢別】

性別で比較すると、「どちらかと言えば評価しない」の割合は、男性（7.2%）が女性（4.0%）より 3.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「評価する」の割合は、18～29 歳（41.5%）が最も高く、最も低い 60 歳以上（20.6%）と 20.9 ポイントの差がある。

また、「評価する」と「どちらかと言えば評価する」を合わせた『評価する』の割合は、年齢が下がるに従い高くなり、最も高い 18～29 歳（69.6%）と最も低い 60 歳以上（53.2%）の差は 16.4 ポイントになる。



図Ⅲ－４７ 市内経済維持のための事業者支援に対する評価（性別／年齢別）

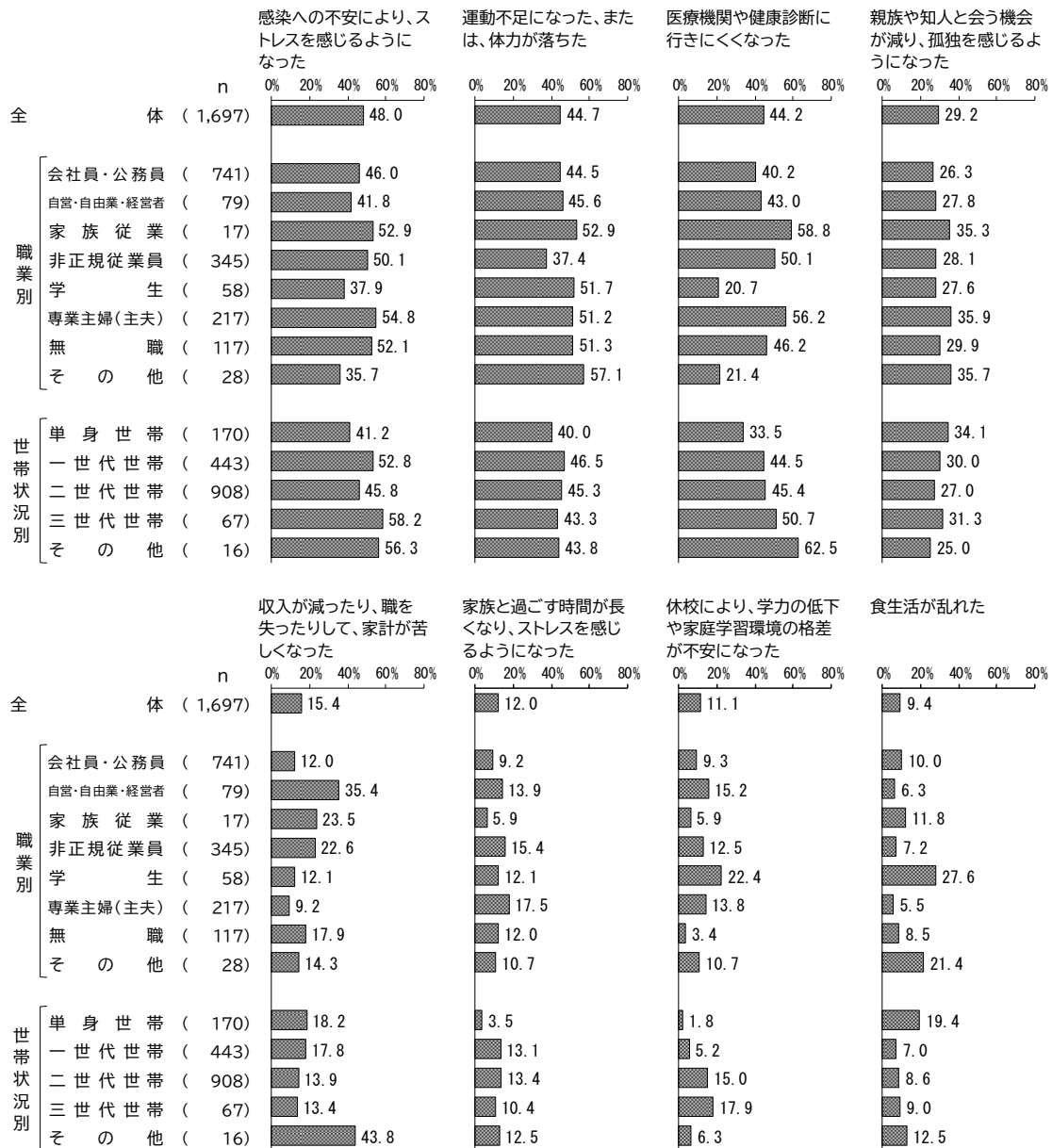
(8) 「新型コロナウイルス感染症の影響」概観

職業や世帯状況によって、生活や心身への影響に差異あり

コロナ禍以前と比べて、生活や心身にどのような変化があったかについては、全体、性別、年齢別に比較しているが、ここでは、職業別と世帯状況別に比較した結果を挙げる。

職業別にみると、「医療機関や健康診断に行きにくくなった」は、家族従業（58.8%）、専業主婦（主夫）（56.2%）、非正規従業員（50.1%）で高く、5割を超えている。「収入が減ったり、職を失ったりして、家計が苦しくなった」は、自営・自由業・経営者と家族従業、非正規従業員で35.4%、23.5%、22.6%、「食生活が乱れた」は学生で27.6%と他と比べて高くなっている。

世帯状況別にみると、「休校により、学力の低下や家庭学習環境の格差が不安になった」では、二世帯世帯と三世帯世帯で各々15.0%、17.9%と他と比べて高くなっている。また、「親族や知人と会う機会が減り、孤独を感じるようになった」、「食生活が乱れた」は、単身世帯で34.1%、19.4%と他と比べて高くなっている。



図Ⅲ-48 生活や心身の変化（職業別／世帯状況別）（上位8項目）

## 4. 「本市の災害対策」について

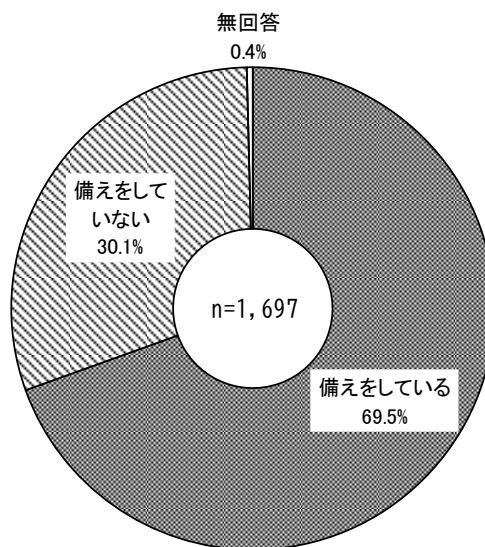
### (1) 災害に備えた対策について

#### (1-1) 日頃からの備え

日頃から災害に備えている人は7割

**【問14】日頃から災害への備えをしていますか。(〇は1つ)**

日頃から災害への備えをしているか聞いたところ、「備えをしている」が69.5%、「備えをしていない」が30.1%となっている。

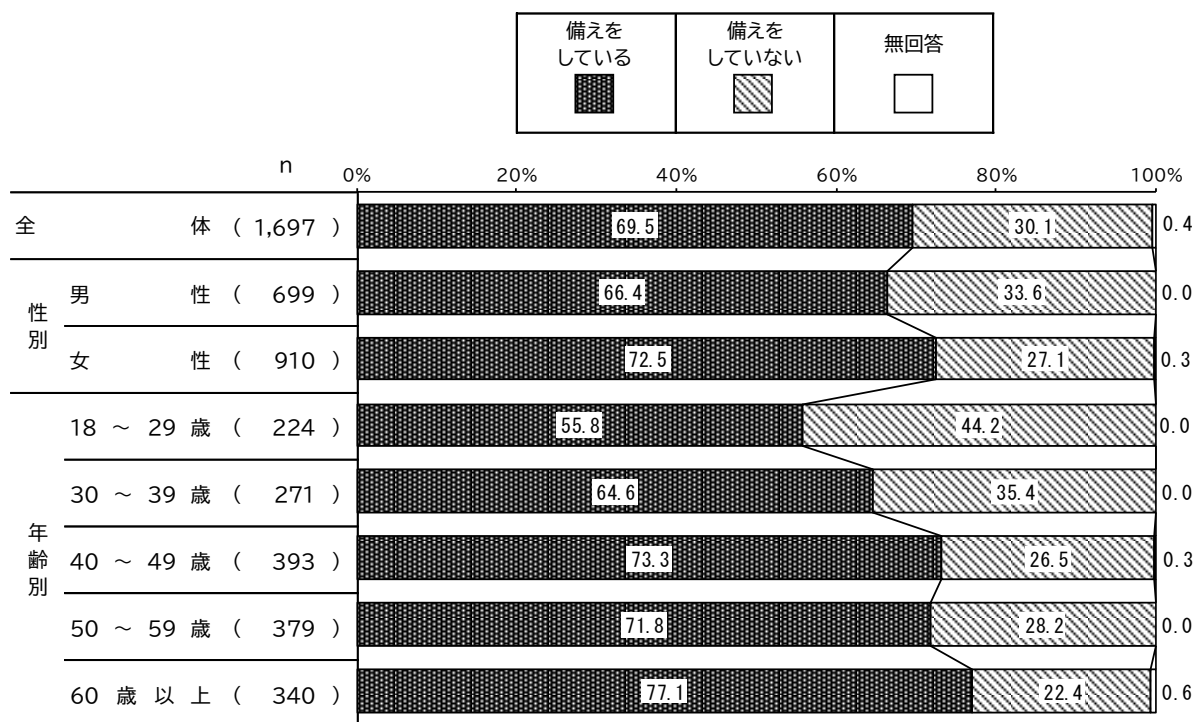


図Ⅲ-49 日頃からの備え

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「備えをしている」は女性（72.5%）が男性（66.4%）より 6.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、年齢が上がるに従い「備えをしている」の割合が高くなる傾向が見られ、60歳以上（77.1%）が最も高く、最も低い18～29歳（55.8%）とは21.3ポイントの差がある。



図Ⅲ－５０ 日頃からの備え（性別／年齢別）

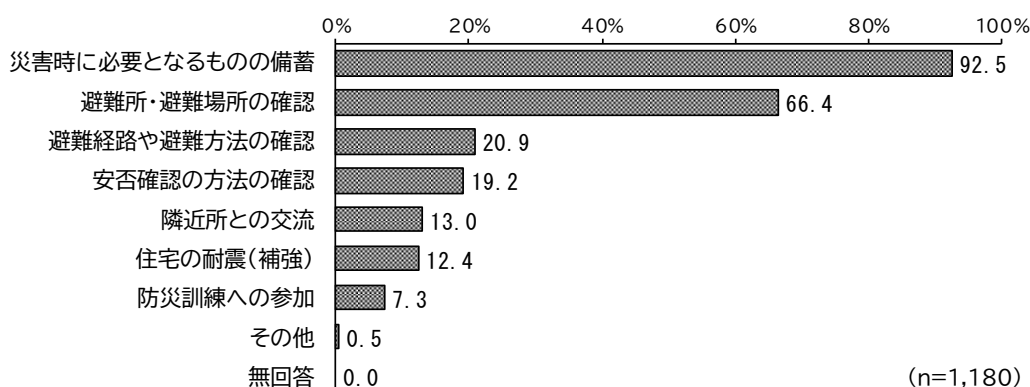
(1-2) 災害に備えた対策の内容

災害に備えた対策は、「災害時に必要となるものの備蓄」が9割超、「避難所・避難場所の確認」が6割超

(問14で「1. 備えをしている」とお答えの方)

【問14-1】どのような備えをしていますか。(〇はいくつでも)

日頃から災害への「備えをしている」と答えた人(1,180人)が行っている備えは、「災害時に必要となるものの備蓄」の割合が92.5%と最も高く9割を超え、次いで「避難所・避難場所の確認」(66.4%)が6割を超え、「避難経路や避難方法の確認」(20.9%)、「安否確認の方法の確認」(19.2%)がおおむね2割となっている。



図Ⅲ-51 災害に備えた対策の内容

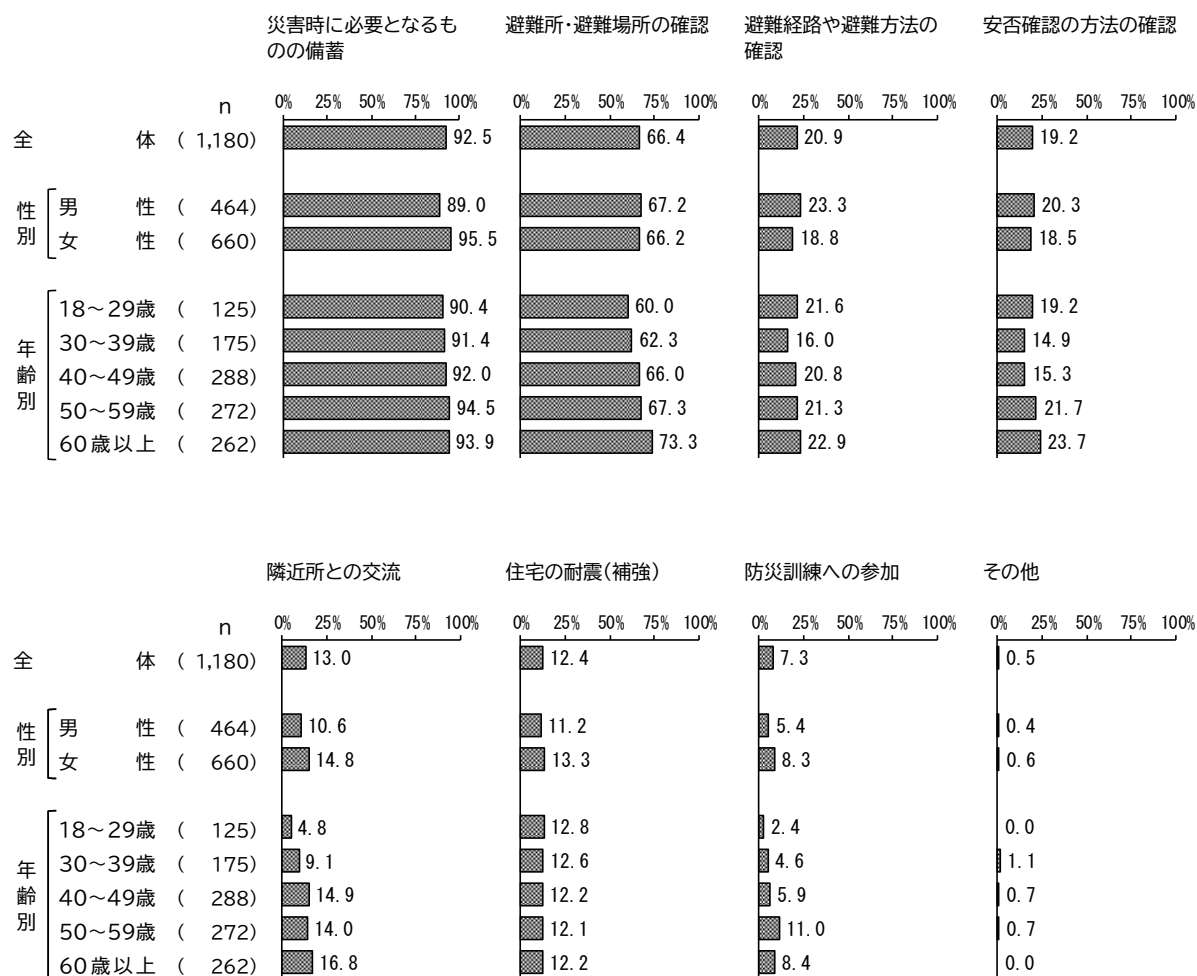
表Ⅲ-11 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
自家発電の設置、防災グッズの購入	2
避難所運営協議会への参加	1
学校、幼稚園の対応と確認	1
住宅の震災時等を含む保険への加入	1
職場での避難訓練	1
合 計	6

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「災害時に必要となるものの備蓄」では、女性（95.5%）が男性（89.0%）より 6.5 ポイント高く、「避難経路や避難方法の確認」では、男性（23.3%）が女性（18.8%）より 4.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「災害時に必要となるものの備蓄」では、全ての年齢で9割を超えている。また、「避難所・避難場所の確認」では、年齢が上がるに従い割合が高くなっており、60歳以上では73.3%と7割を超えている。一方、「防災訓練への参加」といった共助の備えは、全ての年代で低くなっている。

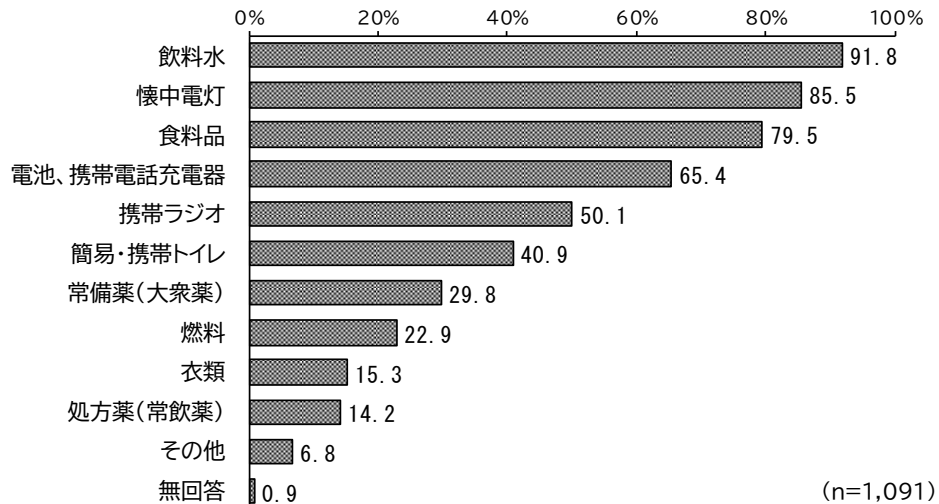


図Ⅲ－５２ 災害に備えた対策の内容（性別／年齢別）

(1-3) 備蓄している品目

「飲料水」、「懐中電灯」、「食料品」を備蓄している人が多く、「飲料水」は9割超  
 (問14-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」とお答えの方)  
 【問14-2】どのような品を備蓄していますか。(〇はいくつでも)

災害に備えた対策の内容で、「災害時に必要となるものの備蓄」と答えた人(1,091人)が備蓄している品目の割合は、「飲料水」が91.8%と最も高く、次いで「懐中電灯」(85.5%)、「食料品」(79.5%)、「電池、携帯電話充電器」(65.4%)、「携帯ラジオ」(50.1%)までが5割を超えている。



図Ⅲ-53 備蓄している品目

表Ⅲ-12 「その他」の内訳

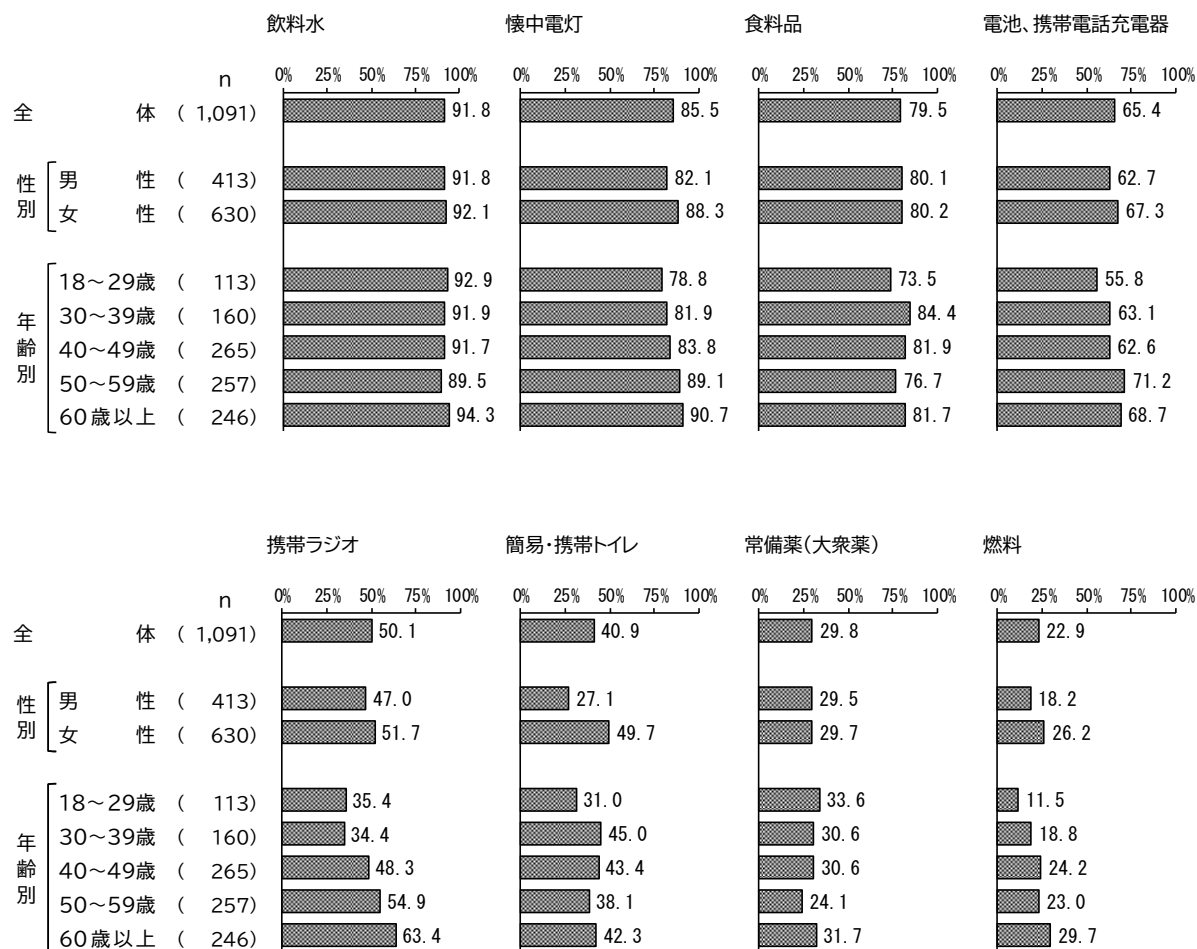
「その他」の内容	件数
マスク	14
バーナー、カセットコンロ	11
ラップフィルム、アルミホイル、キッチンペーパー	10
トイレットペーパー、ティッシュ、ウェットティッシュ	9
生理用品、オムツ	9
ヘルメット、軍手、手袋	9
食器、使い捨て食器	7
消毒液、除菌スプレー、除菌ティッシュ	7
スリッパ、靴	7
タオル	6
テント、寝袋	6
ブルーシート、レジャーシート、アルミシート	6
ゴミ袋、ビニール袋、紙袋	6
防寒具、雨具	6
ペット用品、ペットフード	5
発電機、ポータブル電源	4
キャンプ用品	3
歯ブラシ	3
ミルク、子ども用の食品・菓子	3
石鹸、水のいらないシャンプー	3
その他	18
(記載なし)	3
合 計	155

【性別／年齢別】（上位8項目）

性別で比較すると、「簡易・携帯トイレ」で大きな差が見られ、女性（49.7%）が男性（27.1%）より 22.6 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「飲料水」は全ての年齢でおおむね9割となっている。また、「懐中電灯」、「電池、携帯電話充電器」、「携帯ラジオ」、「燃料」では、年齢が上がるに従い割合も高くなる傾向が見られる。

「携帯ラジオ」では、割合が最も高い 60 歳以上（63.4%）と最も低い 30～39 歳（34.4%）の差が 29.0 ポイントとなっている。



図Ⅲ－54 備蓄している品目（性別／年齢別）（上位8項目）



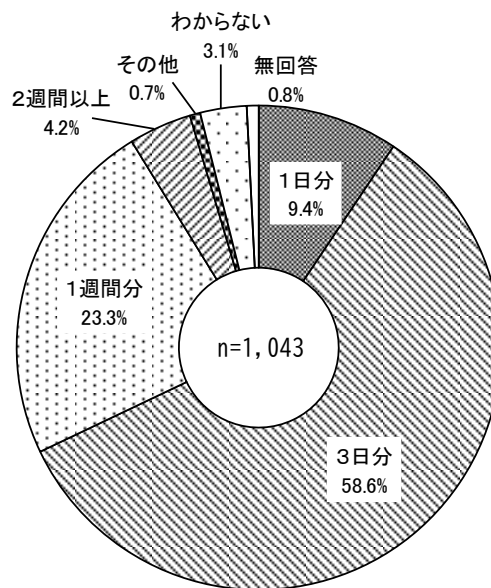
(1-4) 飲料水や食料品を何日分備蓄しているか

6割弱の人が3日分を備蓄、1週間以内が9割超

(問14-2で「1. 飲料水」または「2. 食料品」とお答えの方)

【問14-3】飲料水や食料品を何日分備蓄していますか。(〇は1つ)

備蓄している品目で「飲料水」または「食料品」と答えた人(1,043人)が備蓄している量は、「3日分」が58.6%で最も高く、次いで「1週間分」(23.3%)、「1日分」(9.4%)と続き、ここまでで全体の91.3%を占め9割を超えている。



図Ⅲ-55 飲料水や食料品を何日分備蓄しているか

表Ⅲ-13 「その他」の内訳

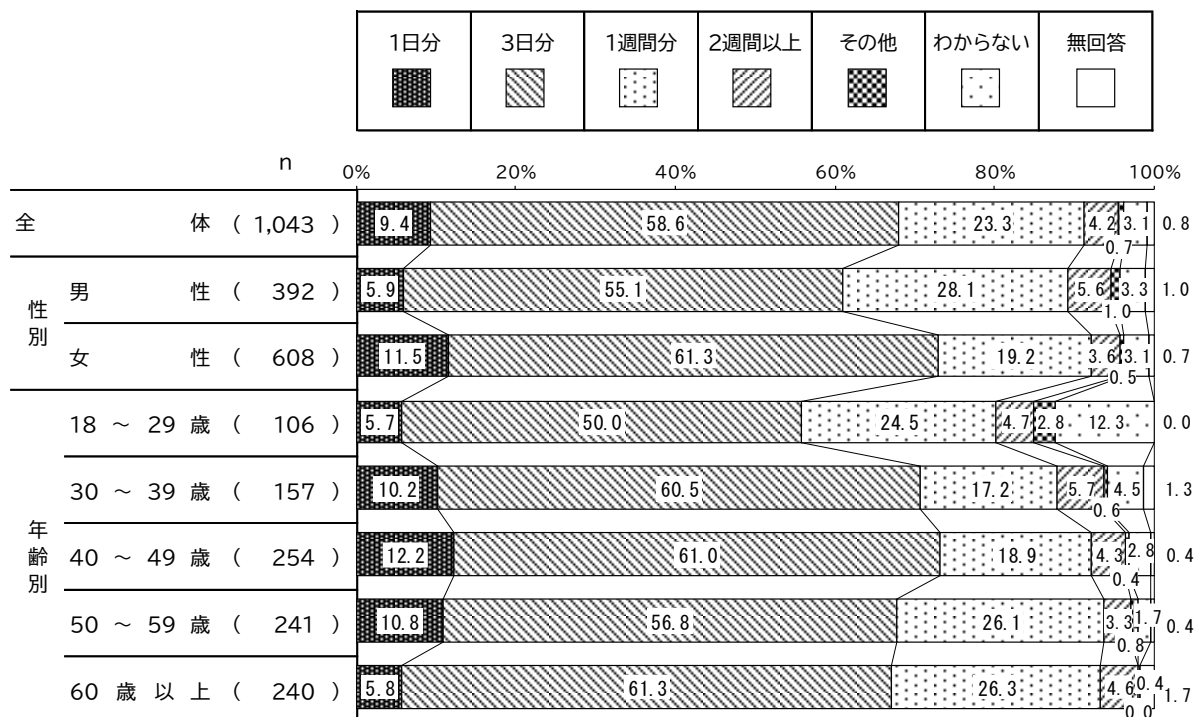
「その他」の内容	件数
2日分	3
マンション全体で備蓄している	2
2ℓペットボトル×30本	1
1食分	1
合計	7

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「1日分」、「3日分」では女性（11.5%、61.3%）が男性（5.9%、55.1%）より各々5.6、6.2ポイント高く、「1週間分」、「2週間以上」では男性（28.1%、5.6%）が女性（19.2%、3.6%）より各々8.9、2.0ポイント高くなっている。

1週間以内では、女性（92.0%）が男性（89.1%）より2.9ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「3日分」、「1週間分」では60歳以上が各々61.3%、26.3%で最も高くなっている。



図Ⅲ－56 飲料水や食料品を何日分備蓄しているか（性別／年齢別）

(1-5) 備えをしていない理由

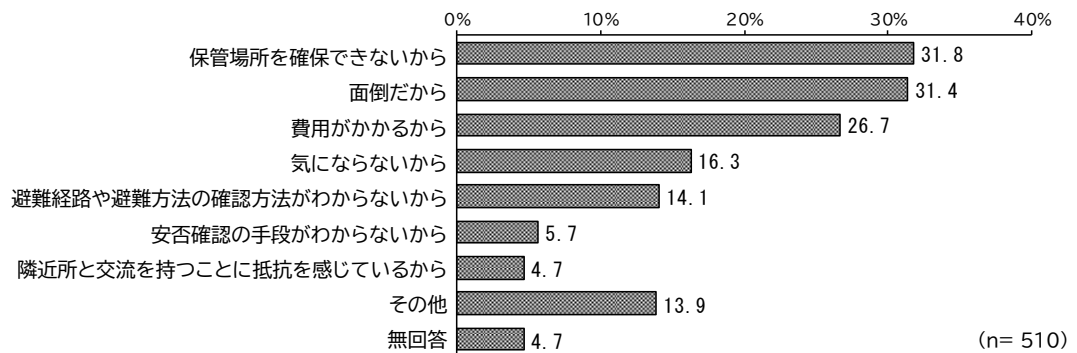
備えをしていない理由は「保管場所を確保できないから」と「面倒だから」が3割超

(問14で「2. 備えをしていない」とお答えの方)

【問14-4】 備えをしていない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

日頃から災害への「備えをしていない」と答えた人(510人)の備えをしていない理由は、「保管場所を確保できないから」が31.8%で最も高く、次いで「面倒だから」(31.4%)が3割を超え、「費用がかかるから」(26.7%)が3割近くになっている。

「その他」については、「備えようと思っはいるができていない」(21件)などが挙がっている。



図Ⅲ-57 備えをしていない理由

表Ⅲ-14 「その他」の内訳

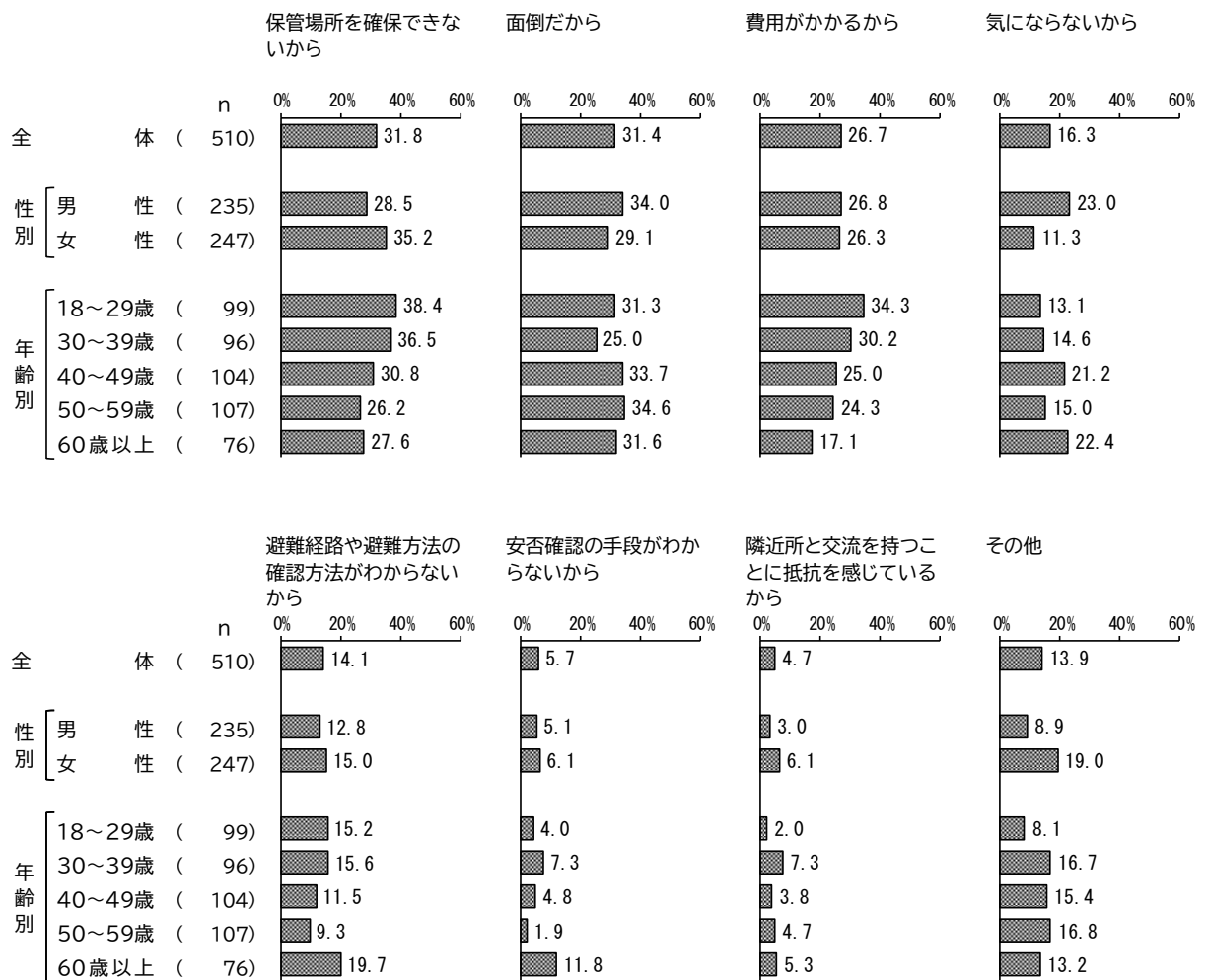
「その他」の内容	件数
備えようと思っはいるができていない	21
多少はしているが完全ではない	9
家族任せにしているから、マンションの組合任せになっているから	5
災害時に家にいるとは限らないから、外出が多いから	4
時間がないから、忙しいから	2
何をどこまで備えればいいのかわからないから	2
避難所が近いから	2
我が家のことだけで手いっぱいだから、備える余裕がないから	2
引越してきたばかりだから	2
その他	11
(記載なし)	12
合計	72

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「面倒だから」、「気にならないから」では男性（34.0%、23.0%）が女性（29.1%、11.3%）より各々4.9、11.7ポイント高くなっている。

一方、「保管場所を確保できないから」では女性（35.2%）が男性（28.5%）より6.7ポイント高くなっている。

年齢別にみると、全体のなかで割合の高い「保管場所を確保できないから」、「費用がかかるから」の2項目については、年齢が下がるに従い割合が高くなる傾向が見られ、最も高いのは18～29歳で38.4%、34.3%となっている。「保管場所を確保できないから」で最も低いのは50～59歳で26.2%、12.2ポイントの差がある。「費用がかかるから」で最も低いのは60歳以上で17.1%、17.2ポイントの差がある。「面倒だから」では、30～39歳を除く全ての年齢で3割を超えている。



図Ⅲ－58 備えをしていない理由（性別／年齢別）

(1-6) 備蓄していない理由

備蓄していない理由は、「賞味期限等の管理が難しいから」が4割近く

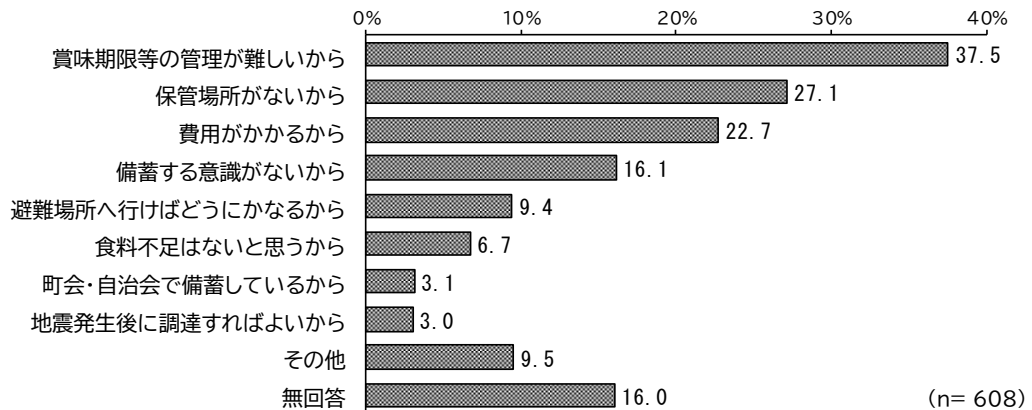
(問14で「2. 備えをしていない」とお答えの方)

(問14-1で「5. 災害時に必要となるものの備蓄」を選ばなかった方)

【問14-5】備蓄していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

日頃から災害への備えをしていない、または災害時に必要となるものの備蓄をしていない人(608人)が備蓄していない理由は、「賞味期限等の管理が難しいから」が37.5%で最も高く、次いで「保管場所がないから」(27.1%)、「費用がかかるから」(22.7%)までが2割を超え、「備蓄する意識がないから」(16.1%)が続いている。

「その他」では、「買い置きしているものがあるから」(13件)や「備蓄しなくてはいけないと思っている」(11件)などが挙がっている。



図Ⅲ-59 備蓄していない理由

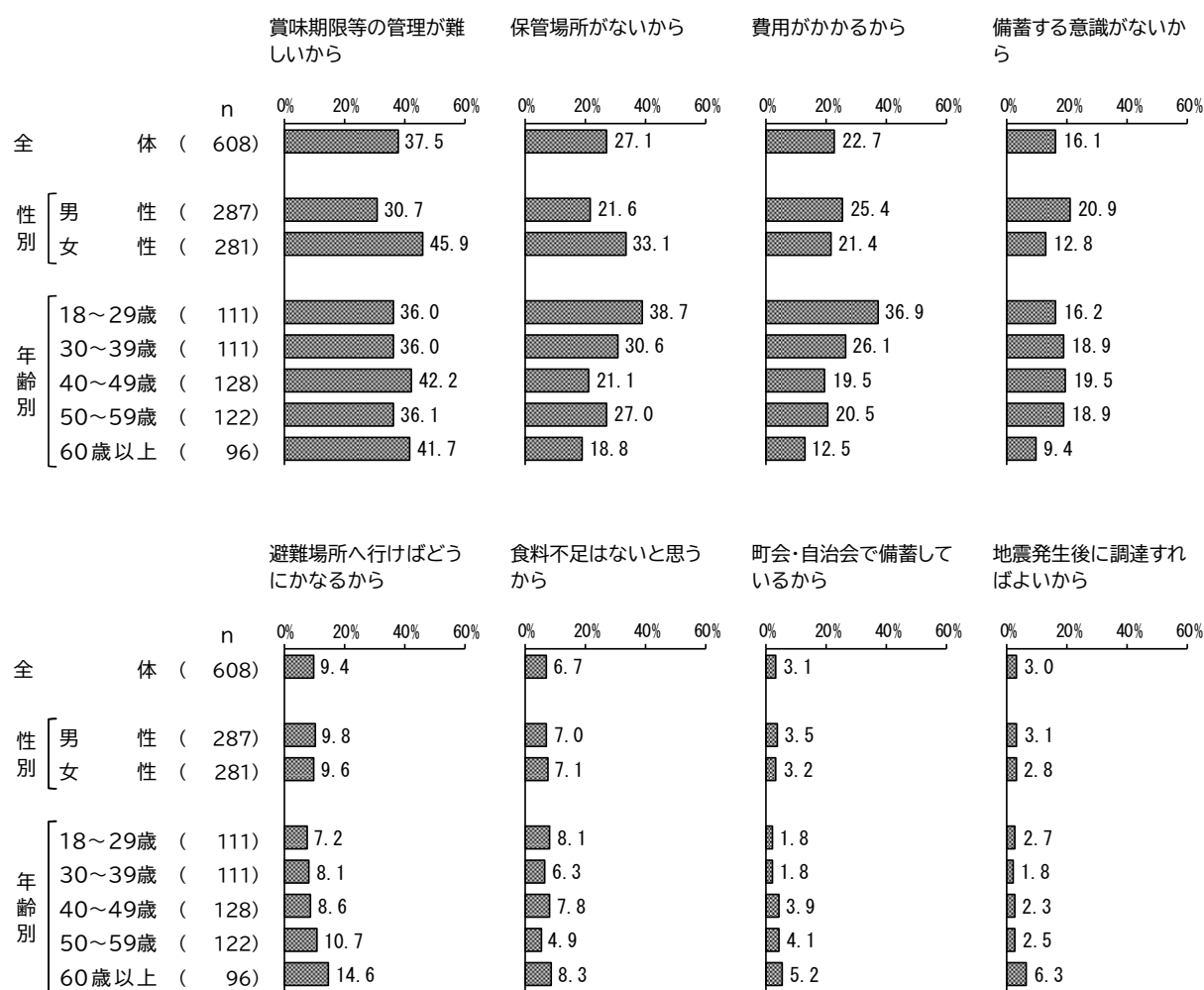
表Ⅲ-15 「その他」の内訳

「その他」の内容	件数
買い置きしているものがあるから	13
備蓄しなくてはいけないと思っている	11
自宅にすることが少ないから	4
何をしたらよいかわからないから	2
準備する時間、きっかけがないから	2
マンション全体で対応しているから	2
引越してきたばかりだから	2
その他	13
(記載なし)	9
合計	58

【性別／年齢別】

性別で比較すると、「賞味期限等の管理が難しいから」、「保管場所がないから」では女性（45.9%、33.1%）が男性（30.7%、21.6%）より各々15.2、11.5 ポイント高くなっている。一方、「費用がかかるから」、「備蓄する意識がないから」では男性（25.4%、20.9%）が女性（21.4%、12.8%）より各々4.0、8.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「賞味期限等の管理が難しいから」は、40～49 歳（42.2%）と 60 歳以上（41.7%）で4割を超えている。「保管場所がないから」、「費用がかかるから」では、18～29 歳（38.7%、36.9%）が最も高く、「避難場所へ行けばどうにかなるから」では60 歳以上（14.6%）の割合が最も高くなっている。



図Ⅲ－60 備蓄していない理由（性別／年齢別）